

2211
141

千家古流生花番會

全



英蓉齋伊藤氏藏書

子家古流生藝圖會

藝取齋藏梓

高天



明治
37 6 18
内交

如

趣

心

癸卯天長節題
芙蓉齋生花園繪

一六歲少作



是伊藤學意自畫生花園會

深々狗糞叱去情了家法校萬孫種
中初以後量回友風標之會多中
生之畫瓶花之瓶態也志星哉
博名畫少可天彩標雅心目山野春
育兵の上の

不知

文學士

志野進志

道固無疆
脩至樂土

はるかかのさき—と家花
えはく 補きと窓の外へ
と家花

外拓園主人 花

之木

甲戌之晚喜於羽竹軒

孫山如文三奇



千家古流生花園會序

虎生而有文炳鳳生而具五采豈自飾畫哉自然也
至於人生而無文炳五色笑能秀於萬物焉亦是自
然也又有使天賦完然身體自覓而至于璧編跛之
廢疾者是毀傷自然之形態而終成醜惡之人也草
木之生而在深山幽谷則不然其枝葉繁蔚重如
覆在江湖海濱則疎垂縹絡忽焉如撓山水異境之
自然也反之庭園之樹木以斧斤剪其枝葉以銅線
為其曲折雖能驚愚眼非自然不亦幾醜惡之人類
乎嗚呼庭園樹木不可愛也可愛造化之自然矣余



馬耳蘭
韓山白雲之入十平



楊柳數節
山茶三枝



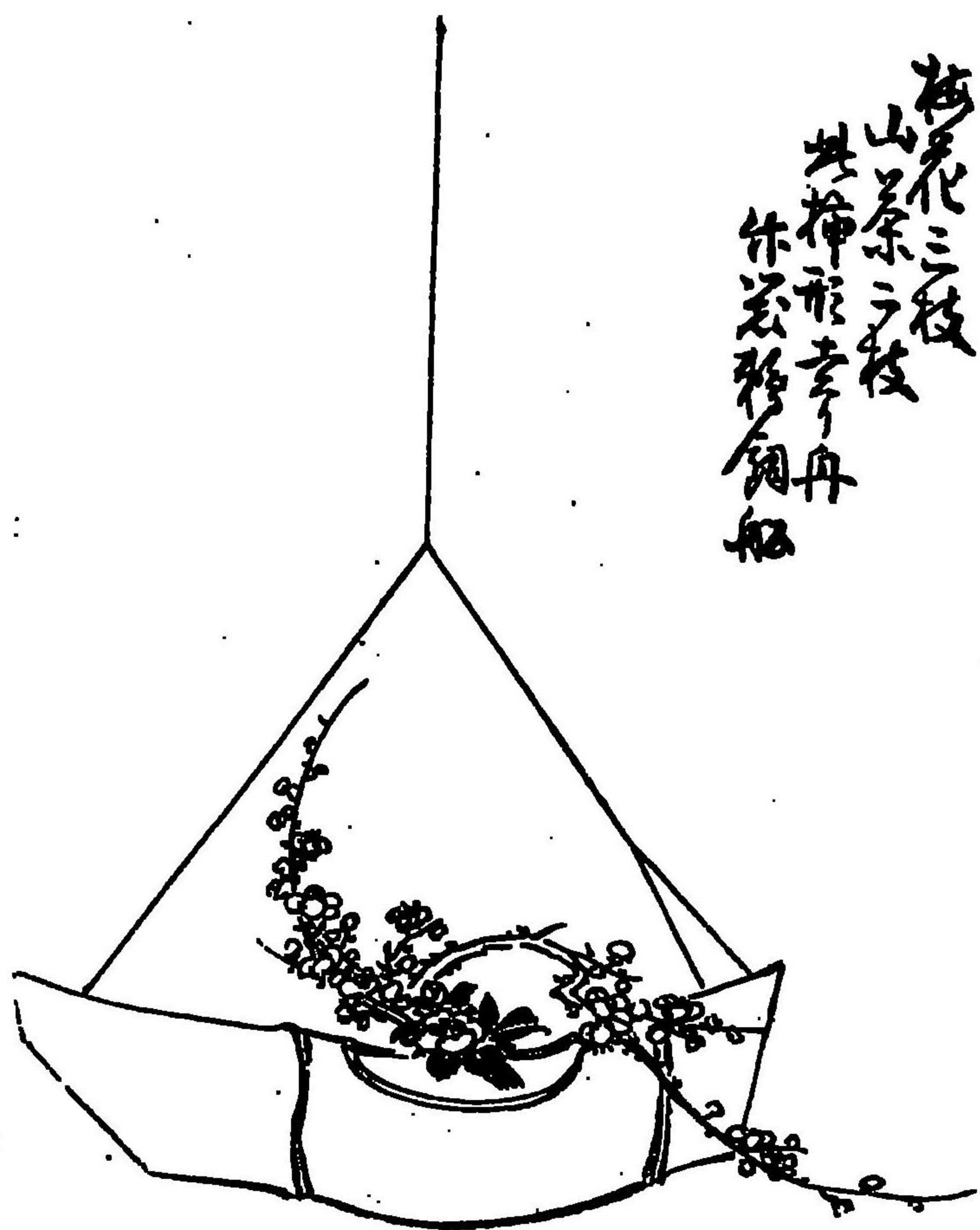
柳二枝水仙一本
山茶三枝

菘菜

三寸



梅花三枝
山茶二枝
共挿形幸丹
竹花移金銅船



燕子花二枝



海棠花七枝



牡丹三枝



天香

花入之草



花入之草





白梅三枝
梅二枝
作茶齋



南桐二系



荆萱
小菊
六

一
拂
我
一
一

一
一



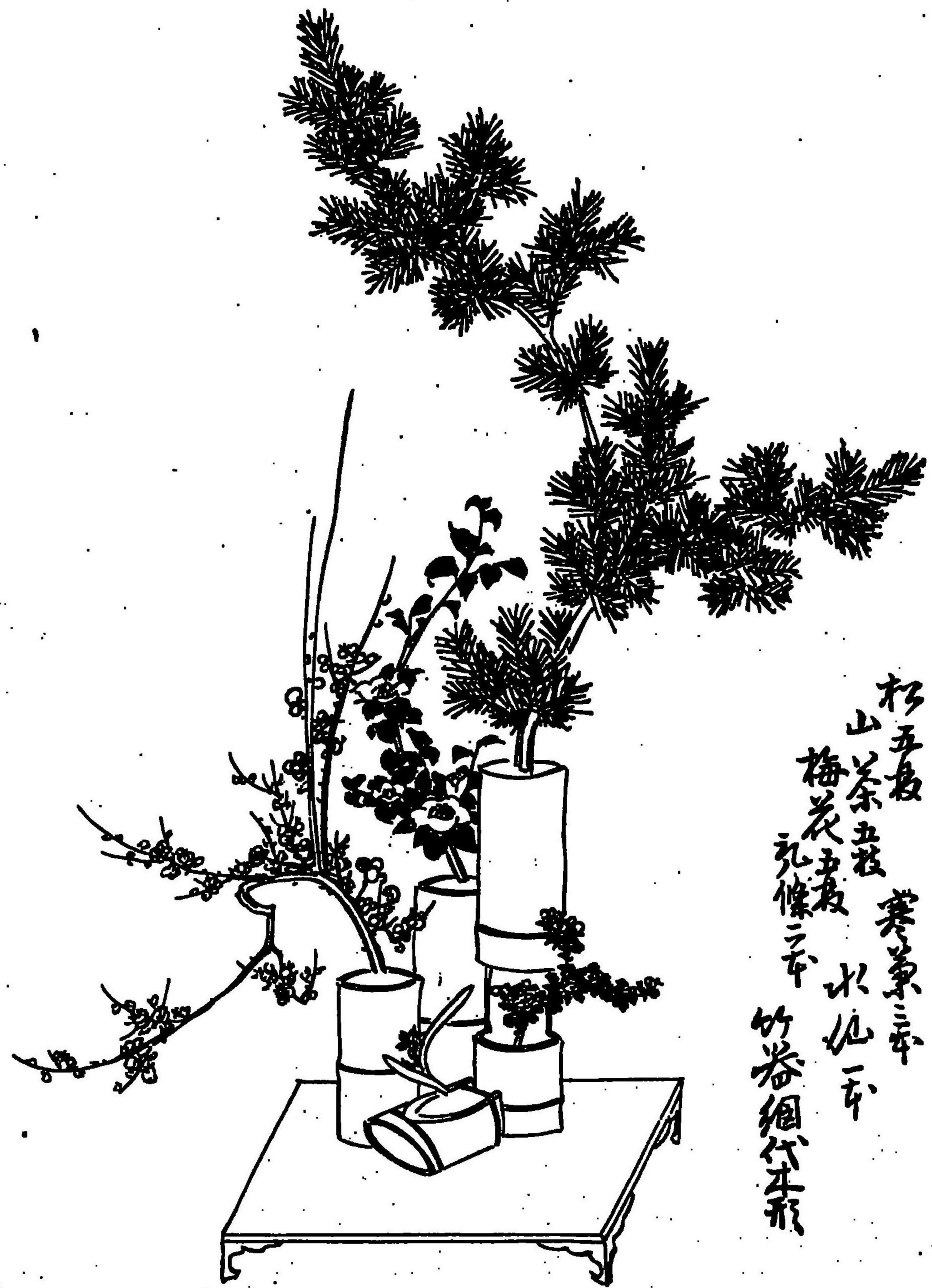
堆朱香卷下柳
三葉一花山茶



傳花

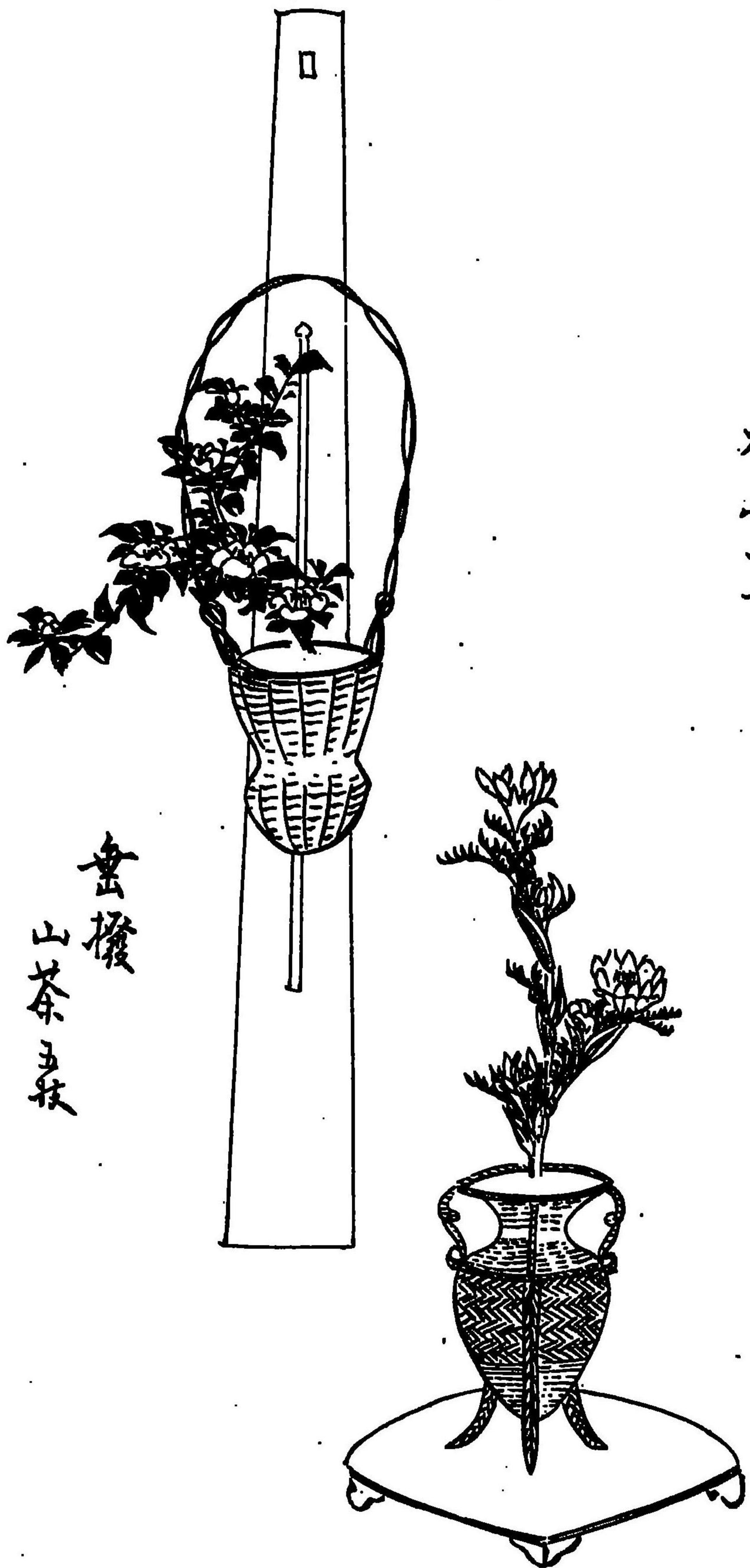
木槿花
七枝





松五枝
 山茶五枝
 梅花五枝
 寒菊三枝
 水仙二枝
 九條三寸
 竹器細行本形

福壽草三枝



虫撥
 山茶五枝

川骨ニ奉花ニ下
大樂樂傳



秋ノ菊大輪
ニ下ニ本



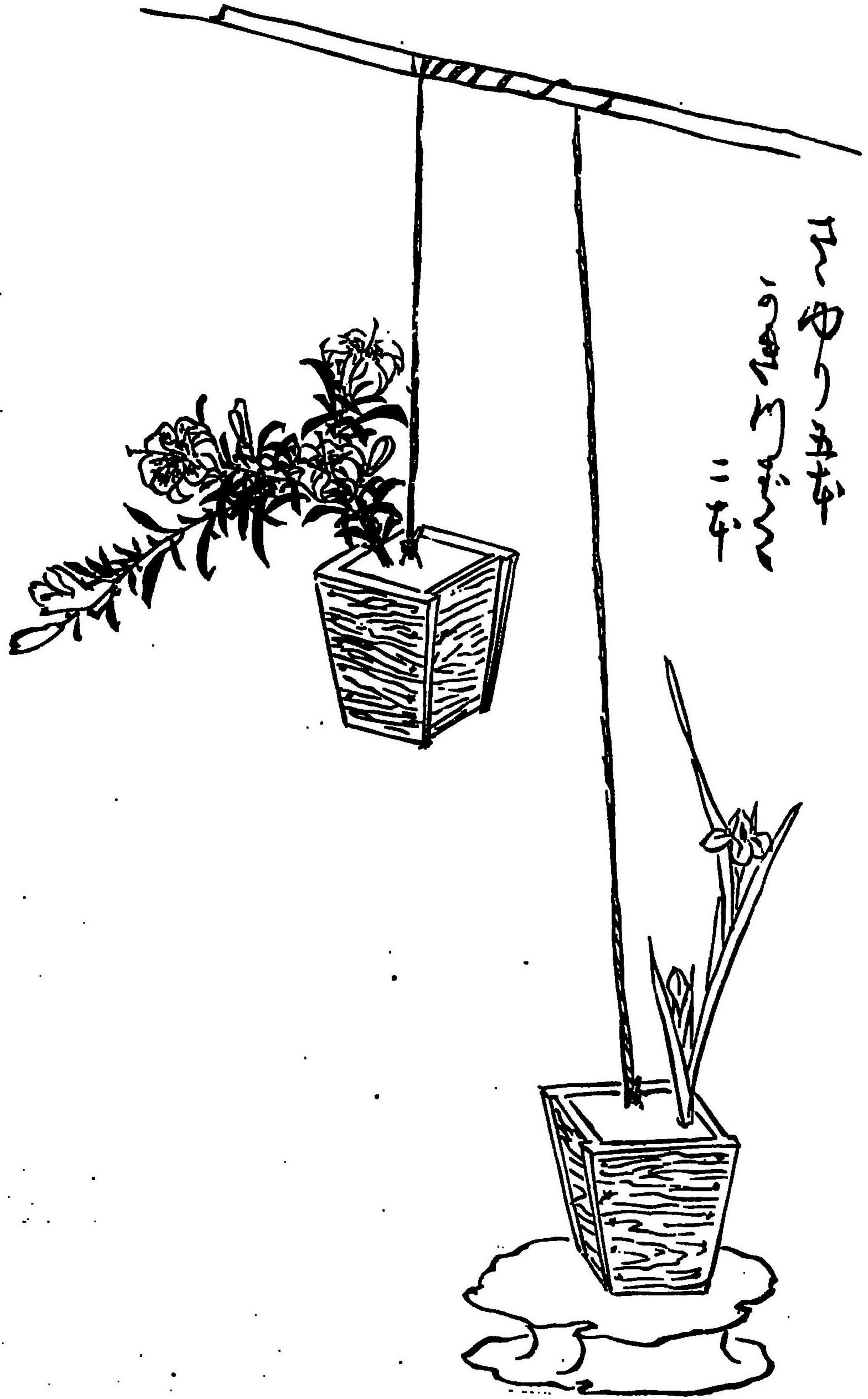
牡丹
一輪神
口存行



鶴尾

神了買一

牡丹
一輪神
口存行



馬耳蘭
六葉三葉



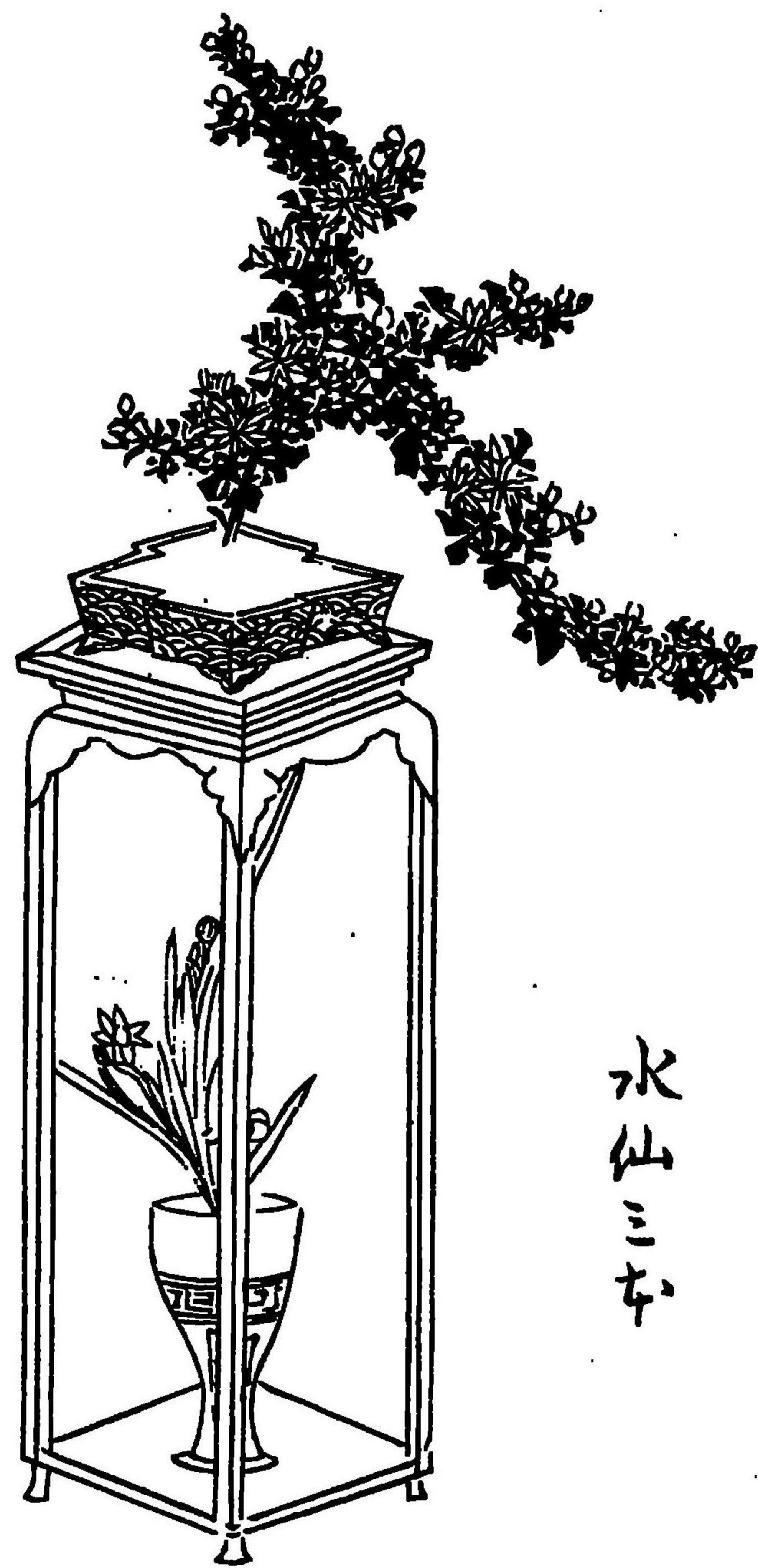
蓮五葉
花二輪





燕子花
九草

寒之菊
九草



水仙
三草

蟻梅

五枝

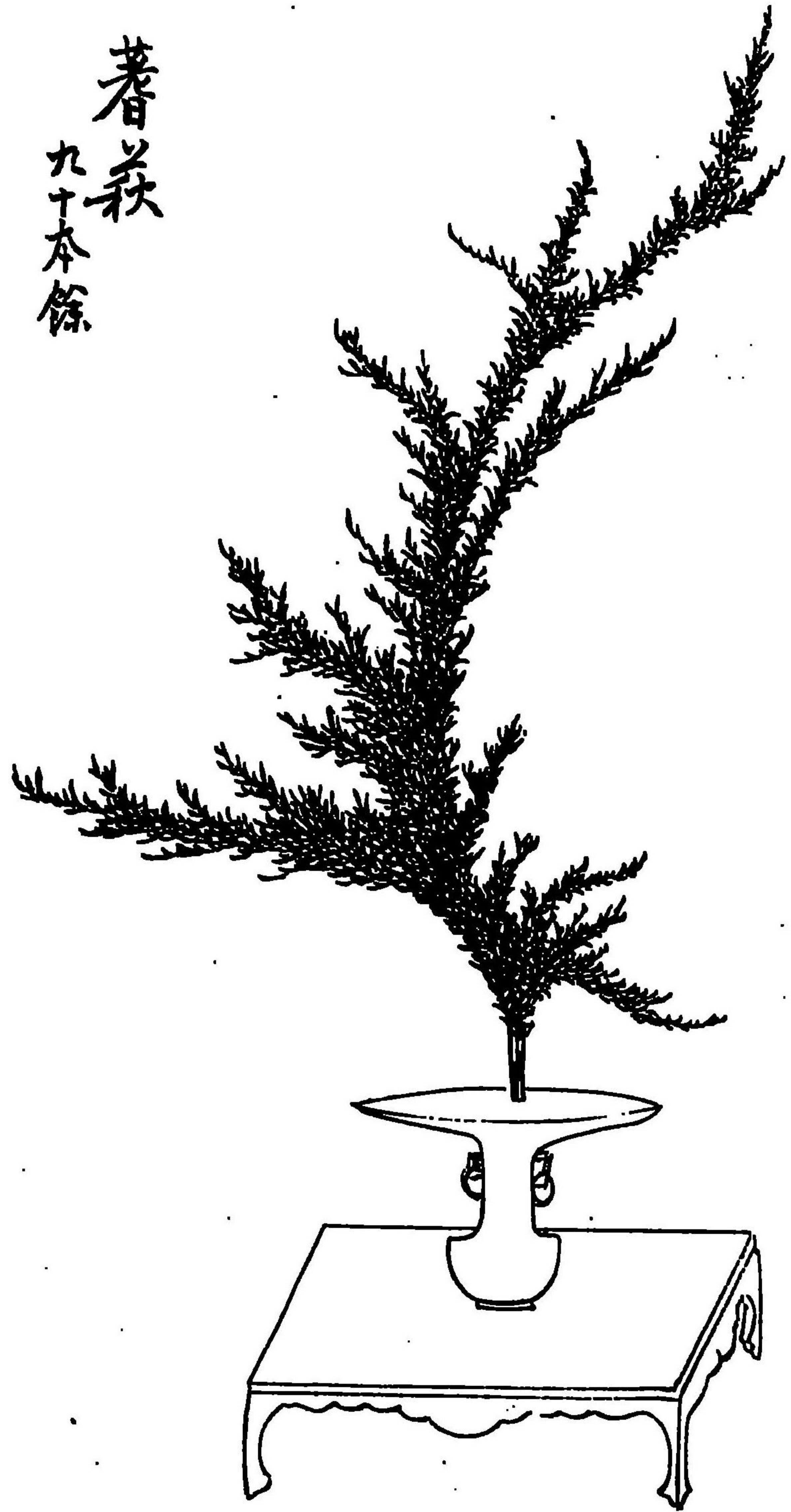


三聖
山
金
之
枝





ふどなる
草



著萩
九十本餘

秋海棠素



白菊



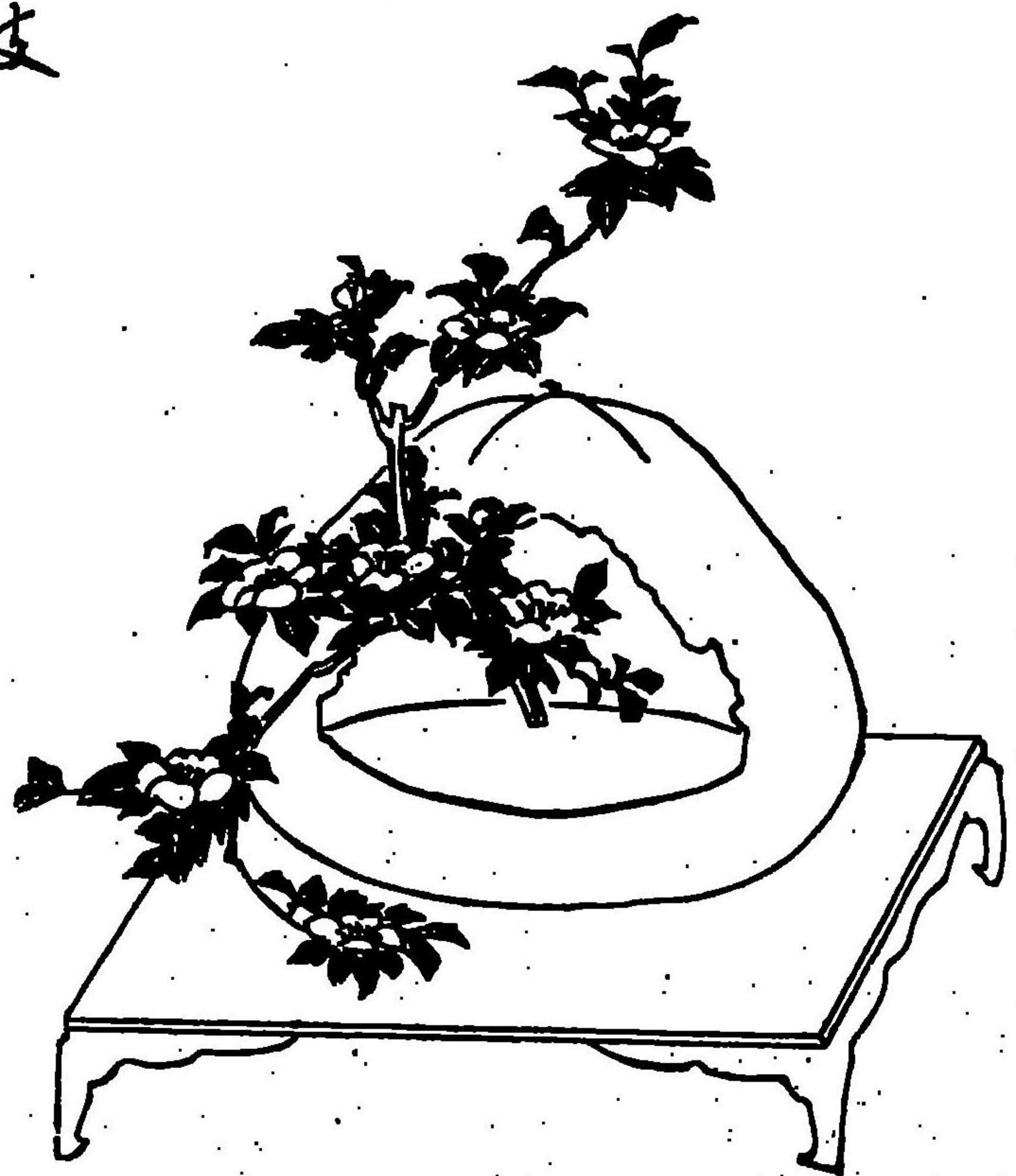
芍藥花
三本



枯蘆
燕子花



山茶五枝



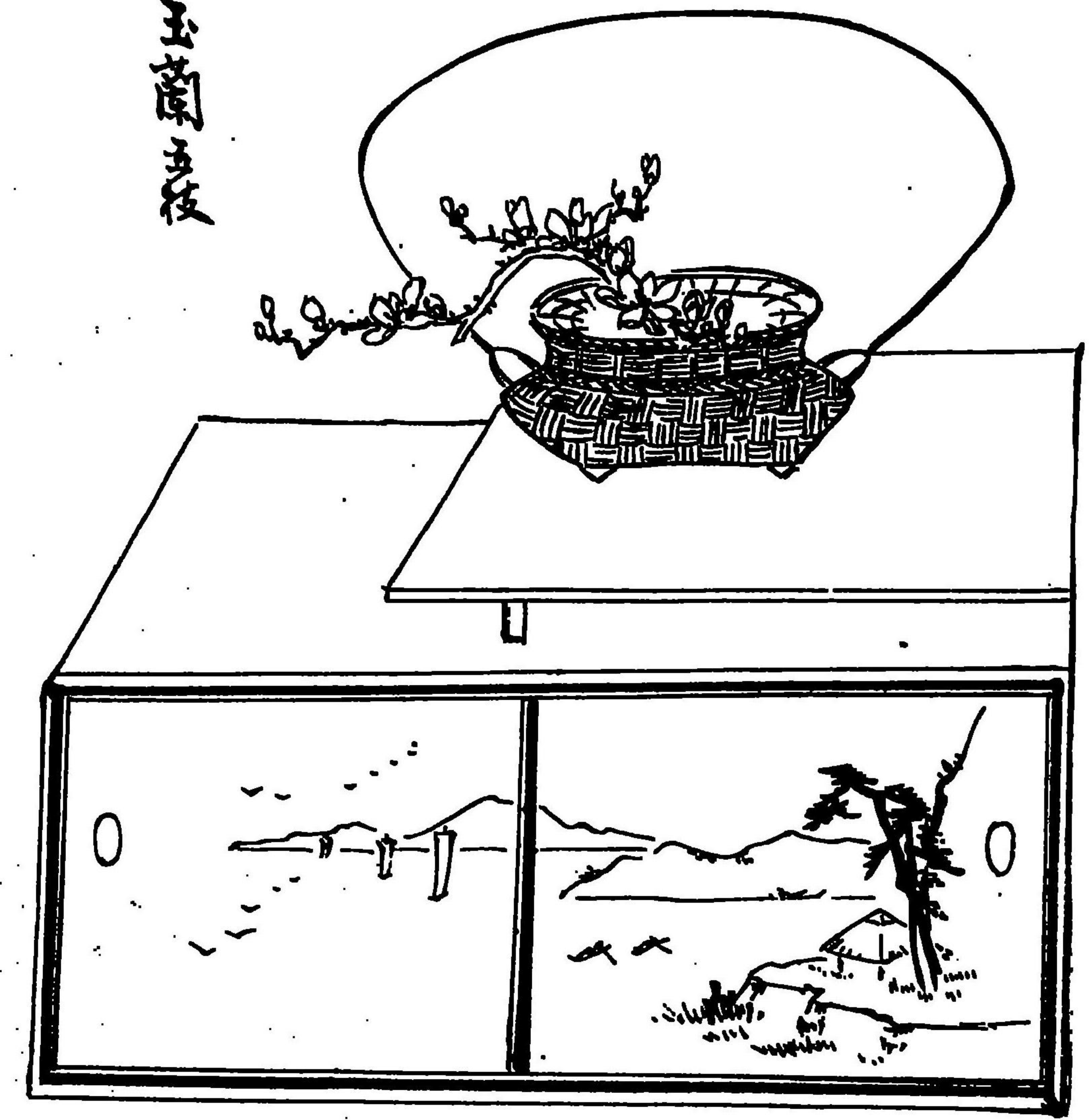
槿五枝



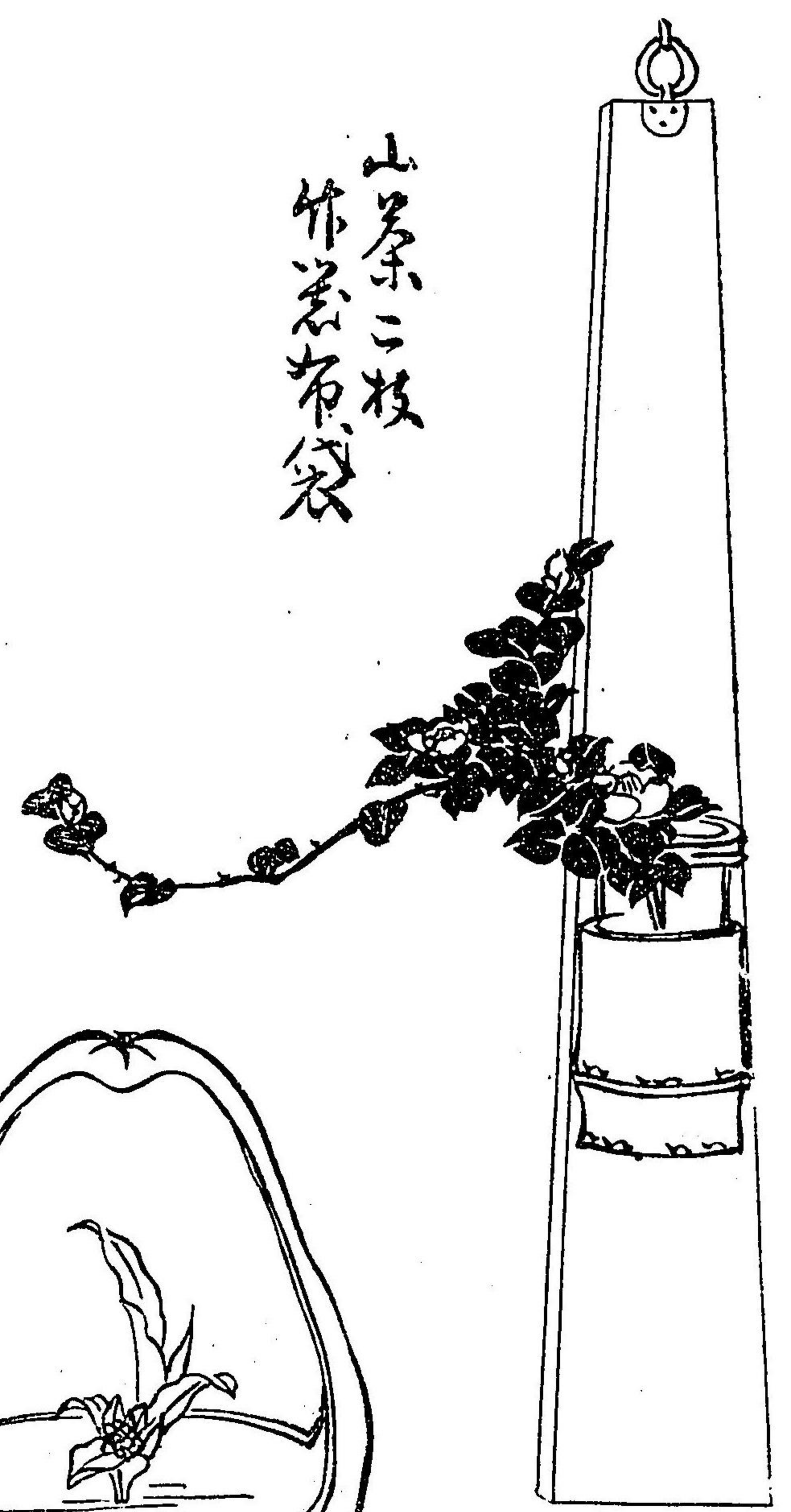
紫苑
三本



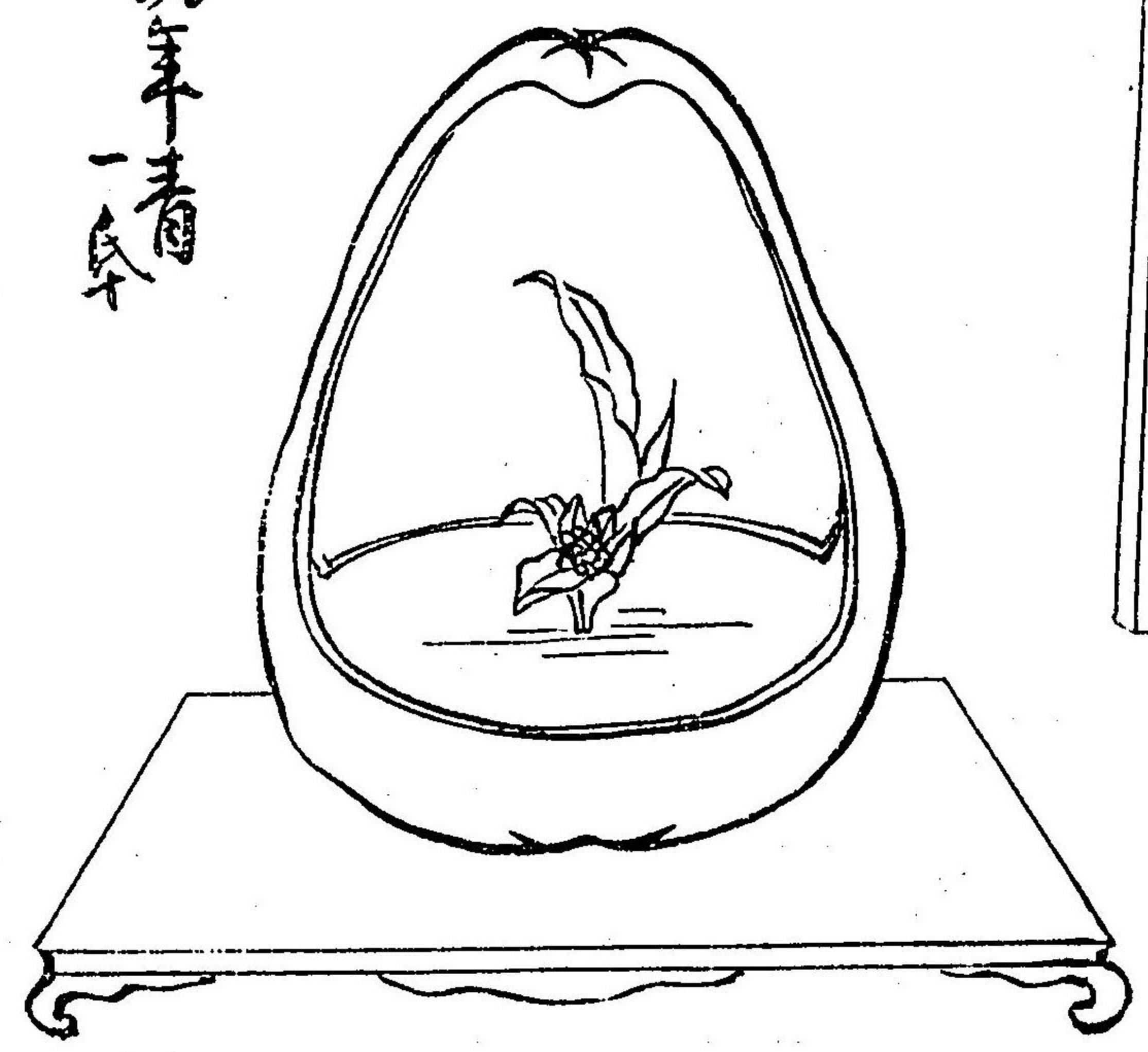
所懸用也



山茶二枝
竹葉布袋



萬年春
一景



かきけい
二景





桔梗五枝



芭
廿十三年
前
芳秋
羅
七本



大箇敷插

燕子花三草

河骨三草花

玉山習花
三十一



馬耳蘭
十葉
十葉



柳
二枝
馬耳蘭
十葉
十葉



燕子花 三本

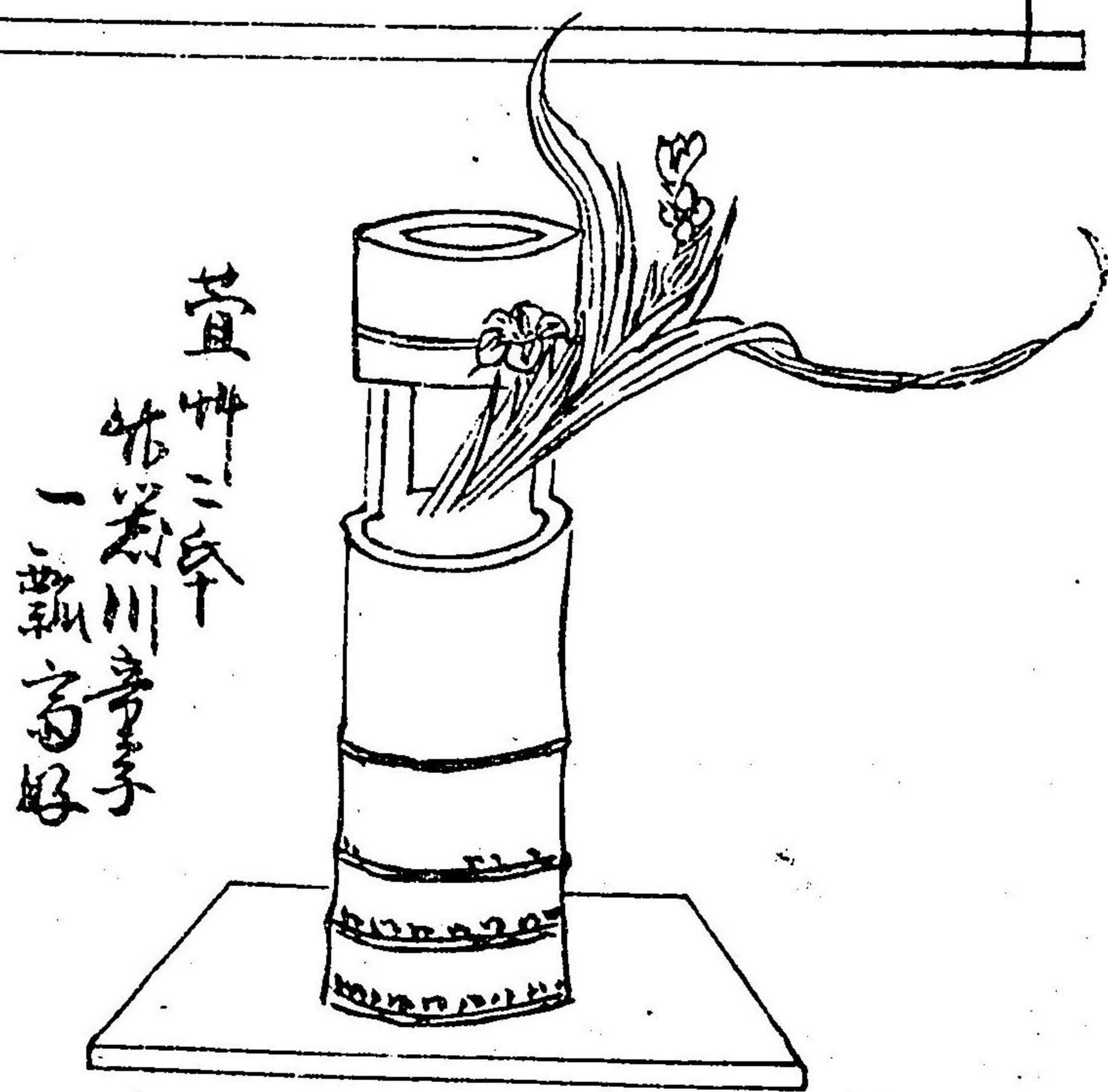


射干 三本
菊 六本



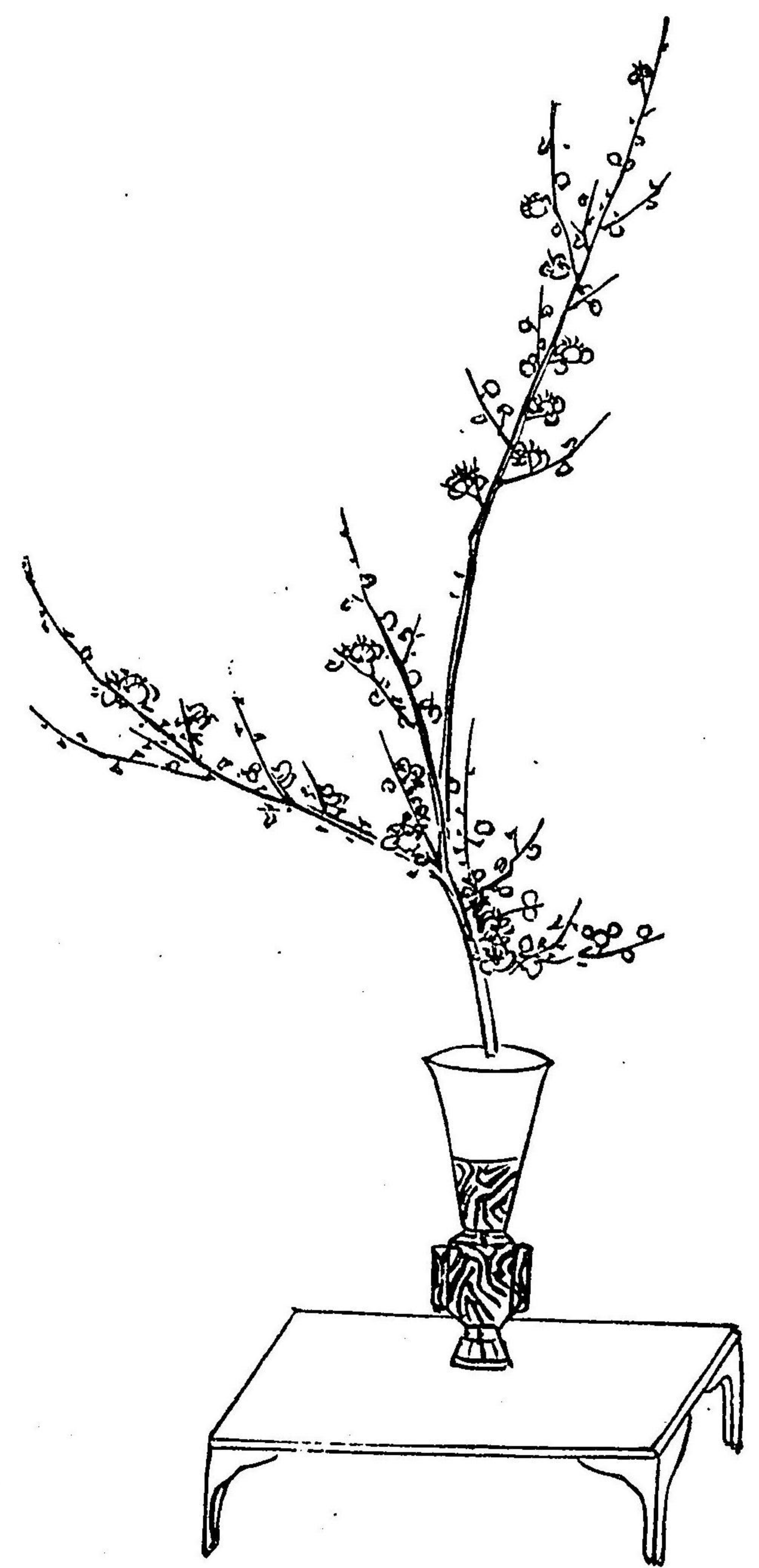
階庭寂子風晴
 零落桂香去
 一葉百佛滾湯
 澆在巾快然
 讀之肯楞嚴

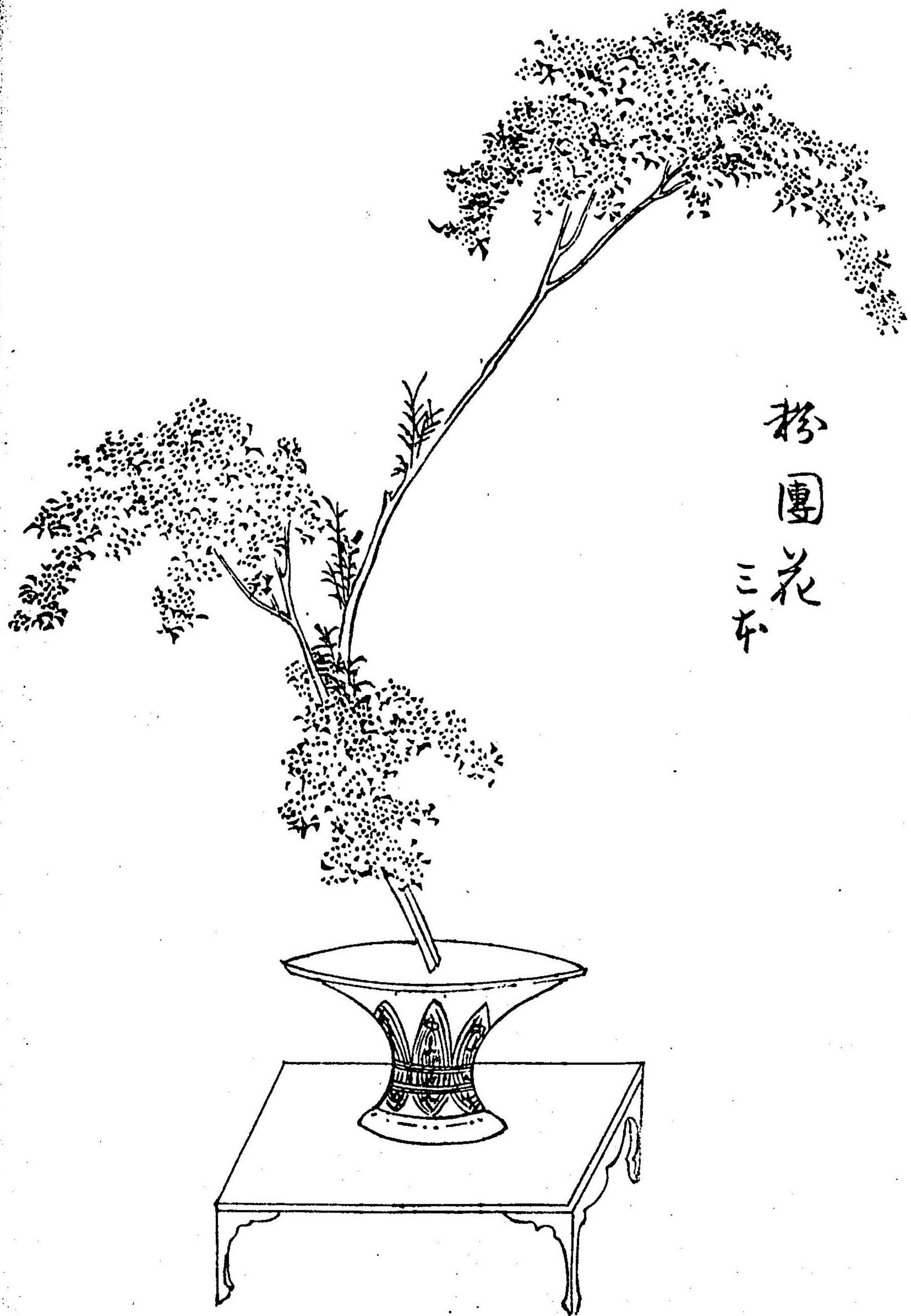
滄海
 吳中孫志



黃竹二竿
 竹葉川香子
 一葉百佛

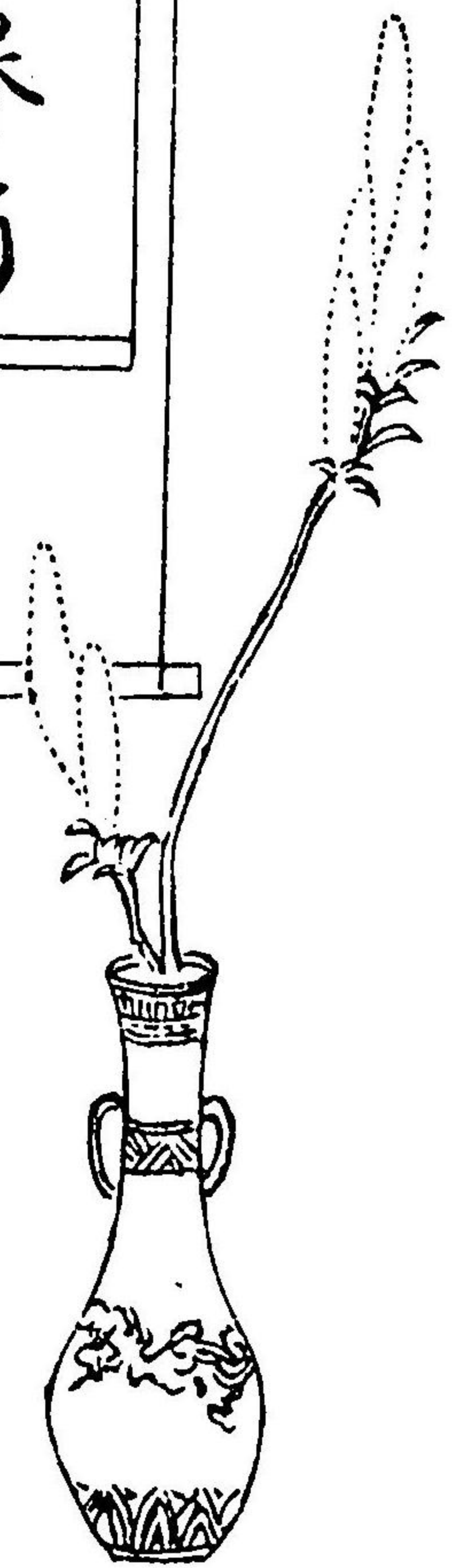
梅五枝





粉團花
三本

朝看一瓶花暮看
 一瓶花，枝雖淺
 決幸可托貧家
 一枝兩枝正三枝四
 枝斜宜直不宜也
 一溪山人 關



大孩子揚
 世間は茶室の置
 花に宜し





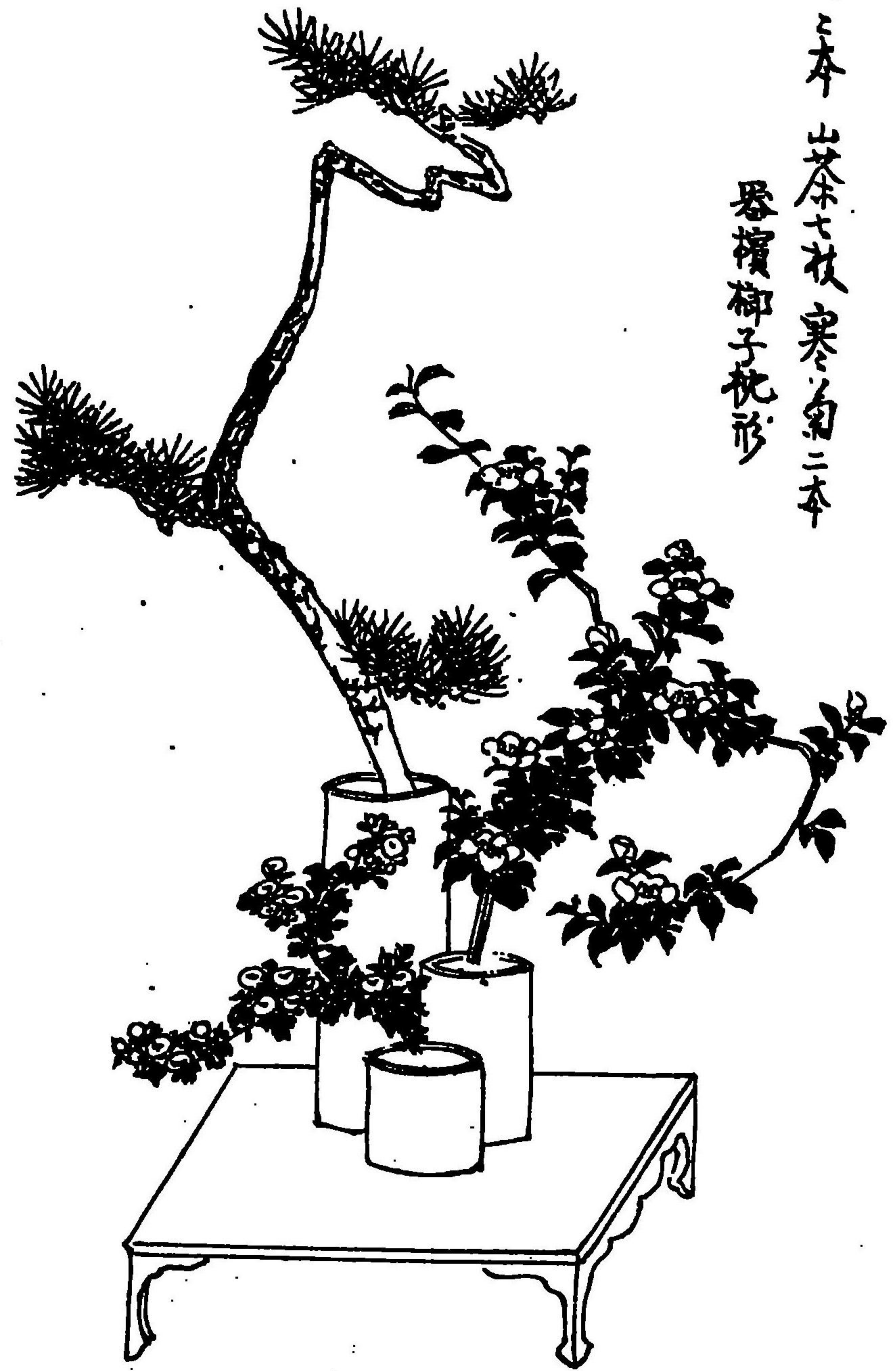
すいせいの花



寒竹 五本 笋二本



白梅五枝
氣條共七枝

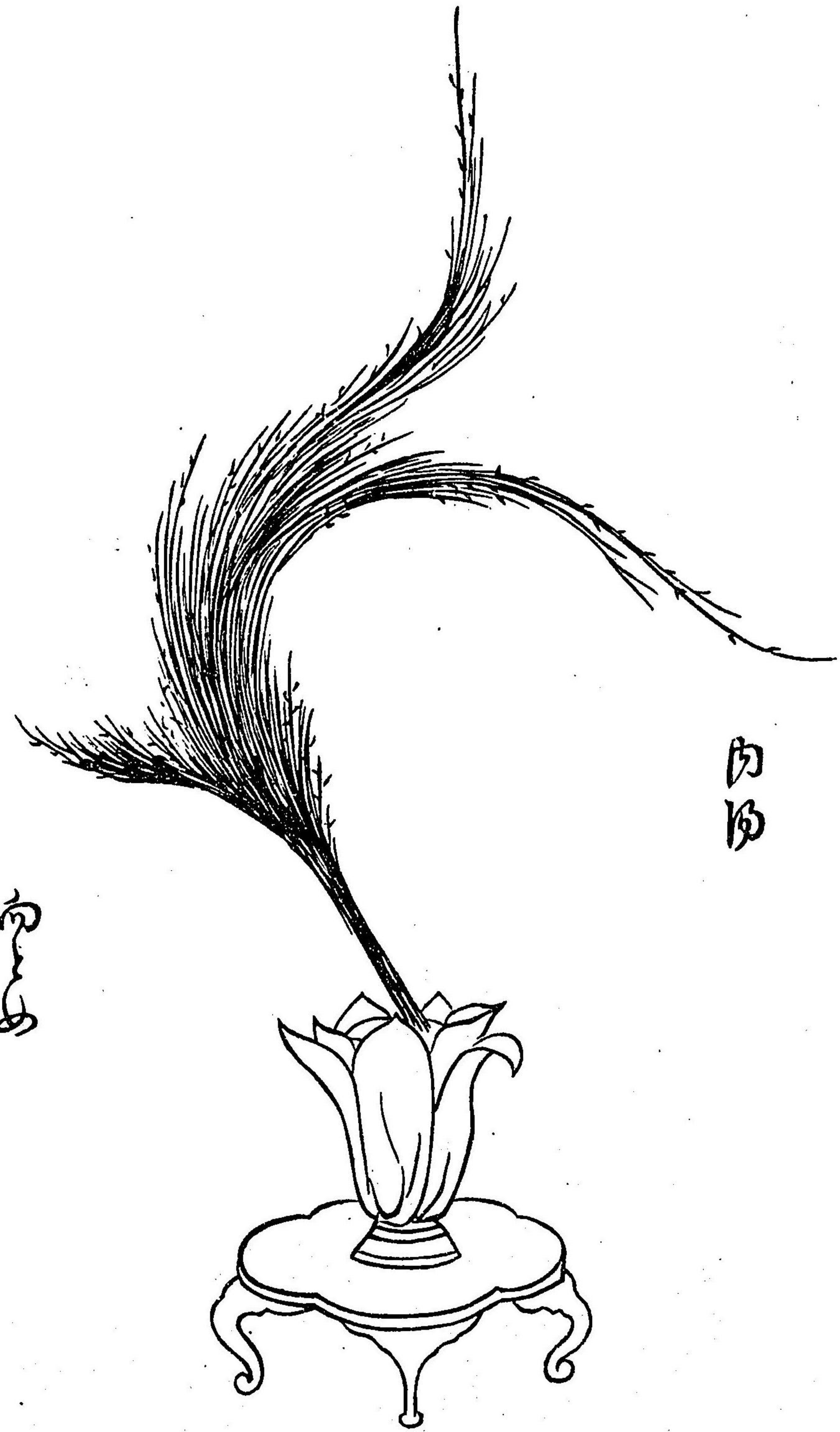


物三本
山茶七枝
寒菊南二本
香檳椰子枕形

秋
大菊
九本



柳
二枝
山
原
五枝
萬
年
萬
一
年



水僂二

水僂二



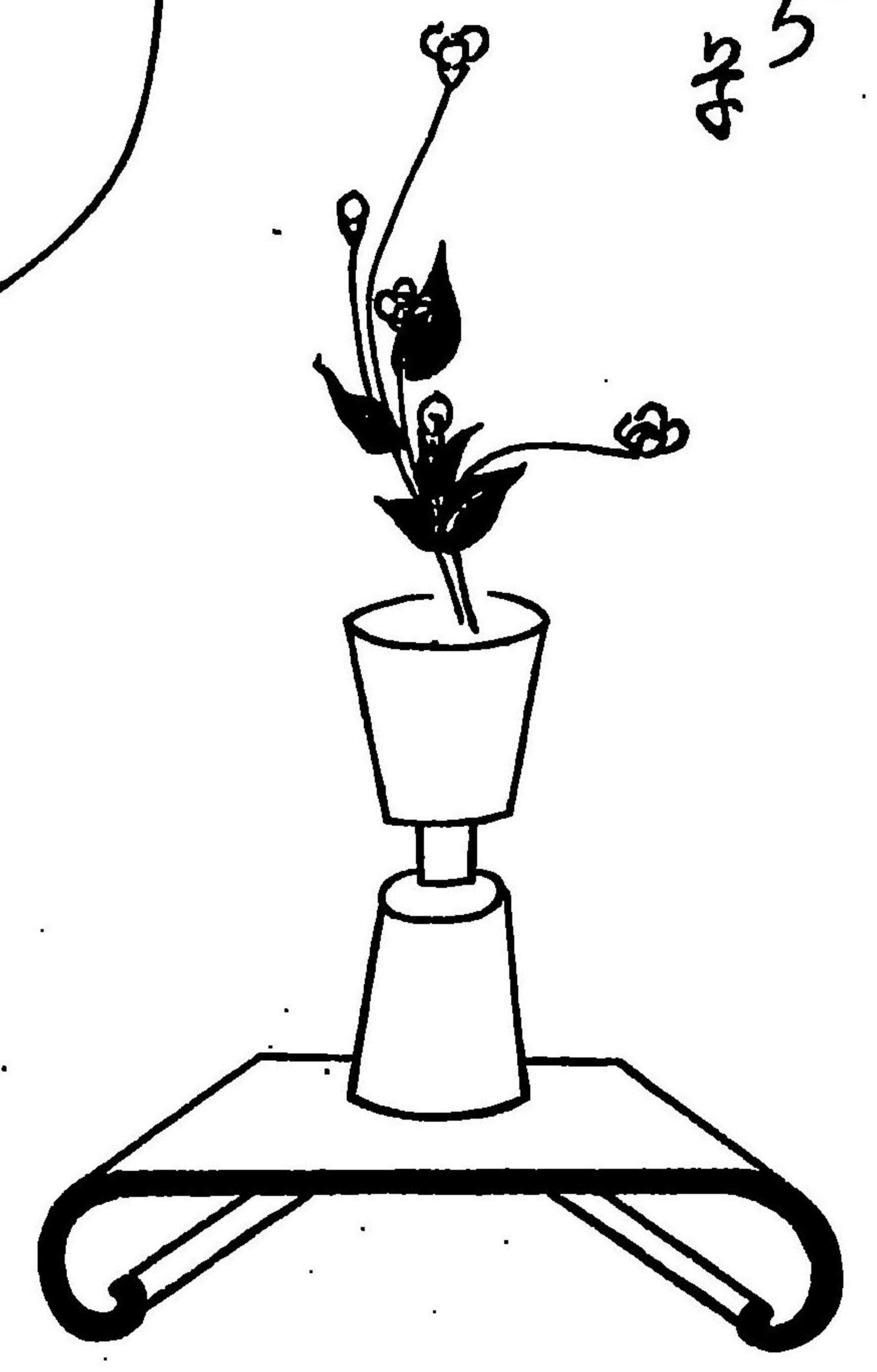


花菖蒲三草

冬牡丹



梅
子



牡丹
五枝



牡丹
河東
此圖





知母
一
二
三
四



桔梗
九
本

曾我生々
いかにいかに



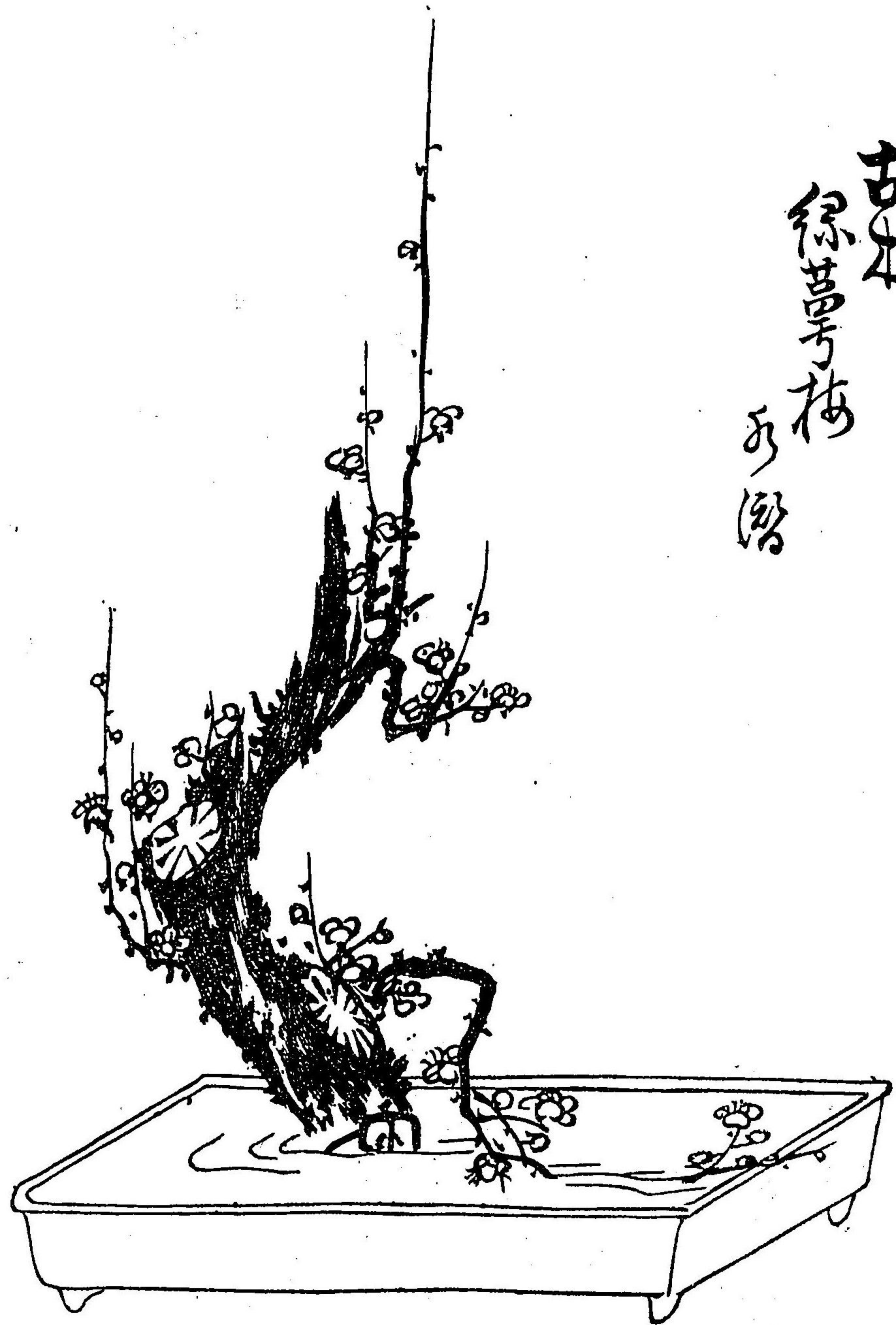
竹器日月形



衛矛
其石枝

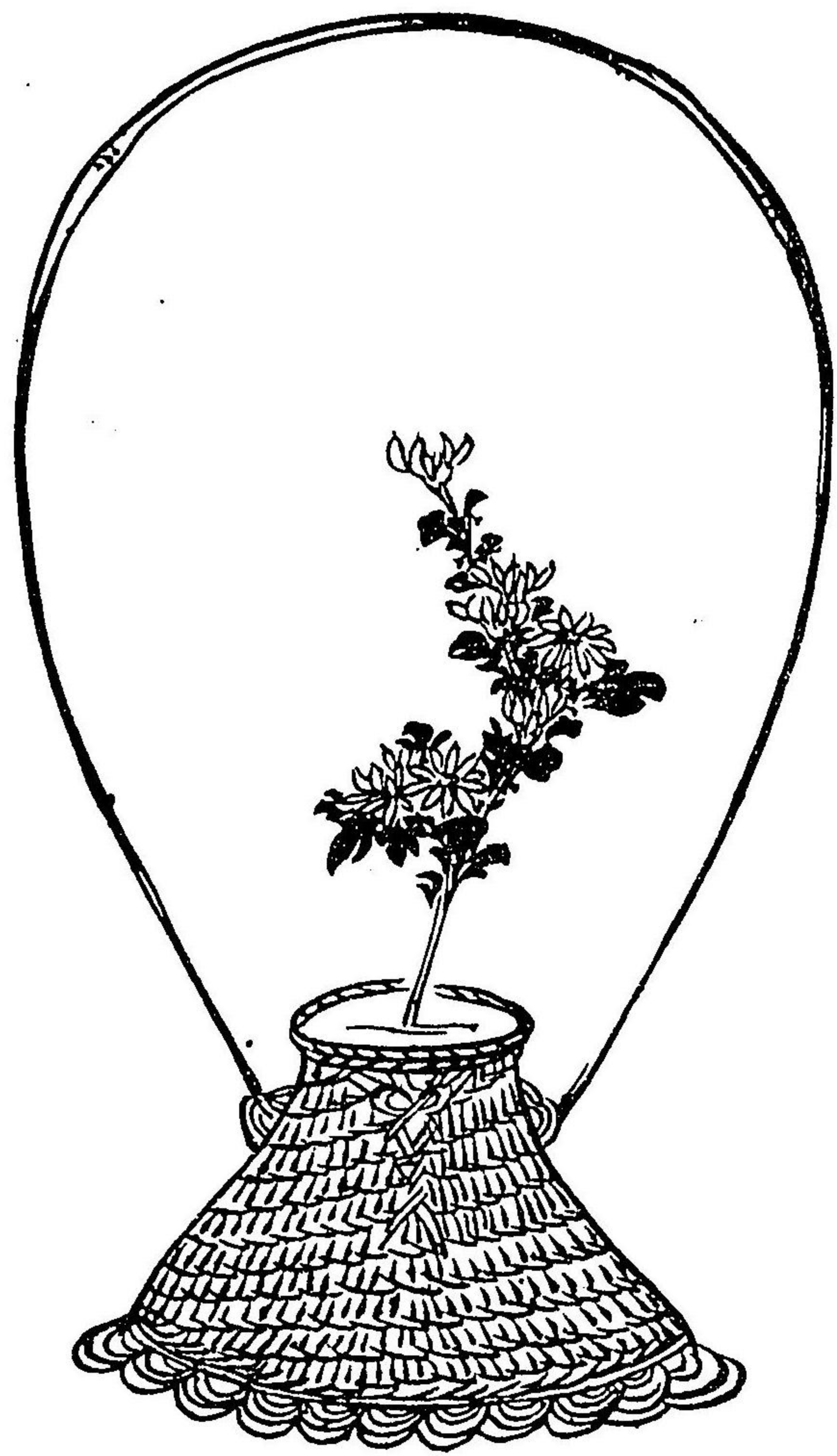


其田南京
雲龍の画

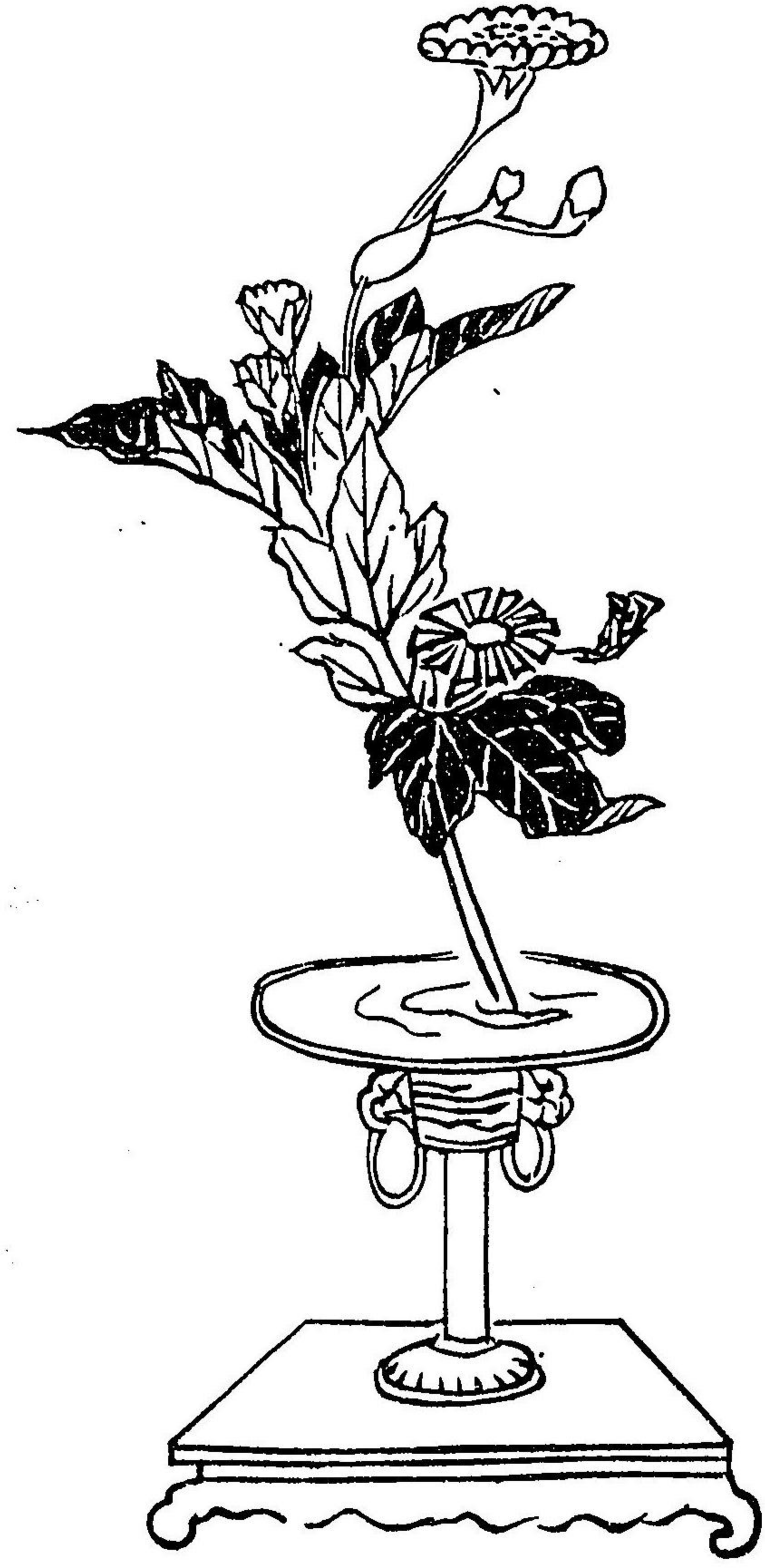


古
緑草花
あけ

十
五
本



大品凡草



馬耳蘭

十一年三月



薊末



万年青中三葉
二年

矮檜

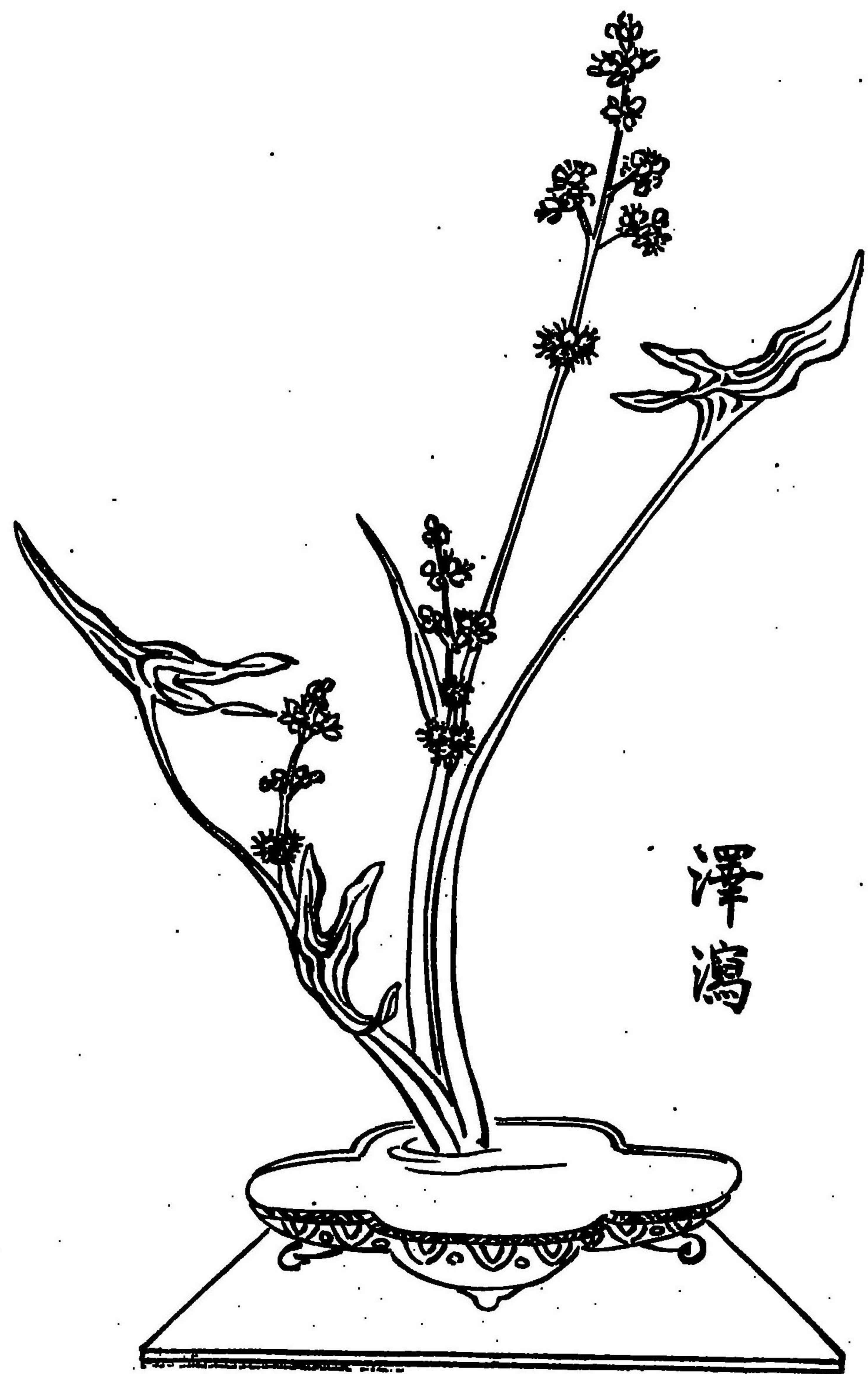
青水陸挿
河骨
三葉一葉
かむろ葉



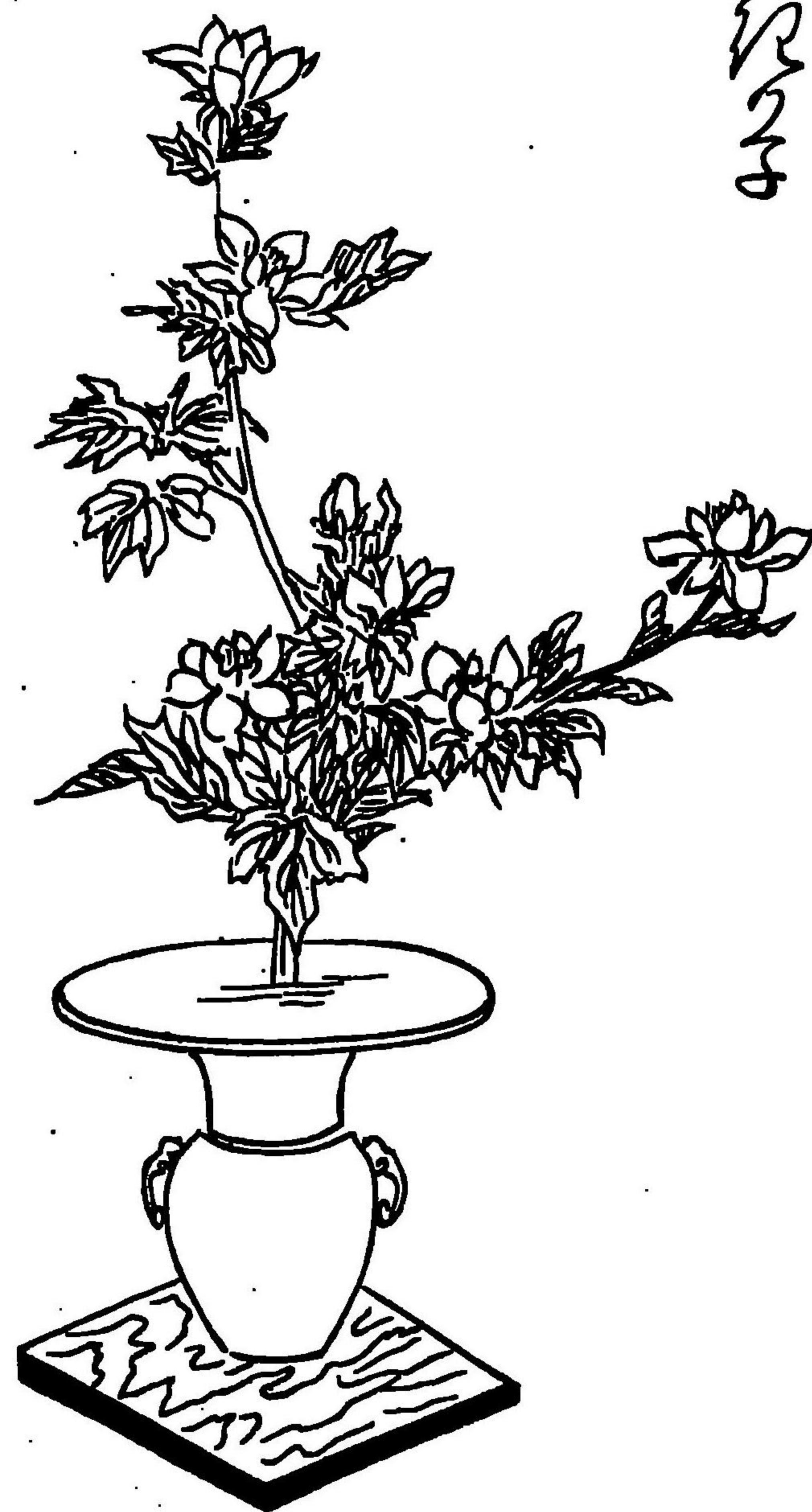
竹

桃花五枝

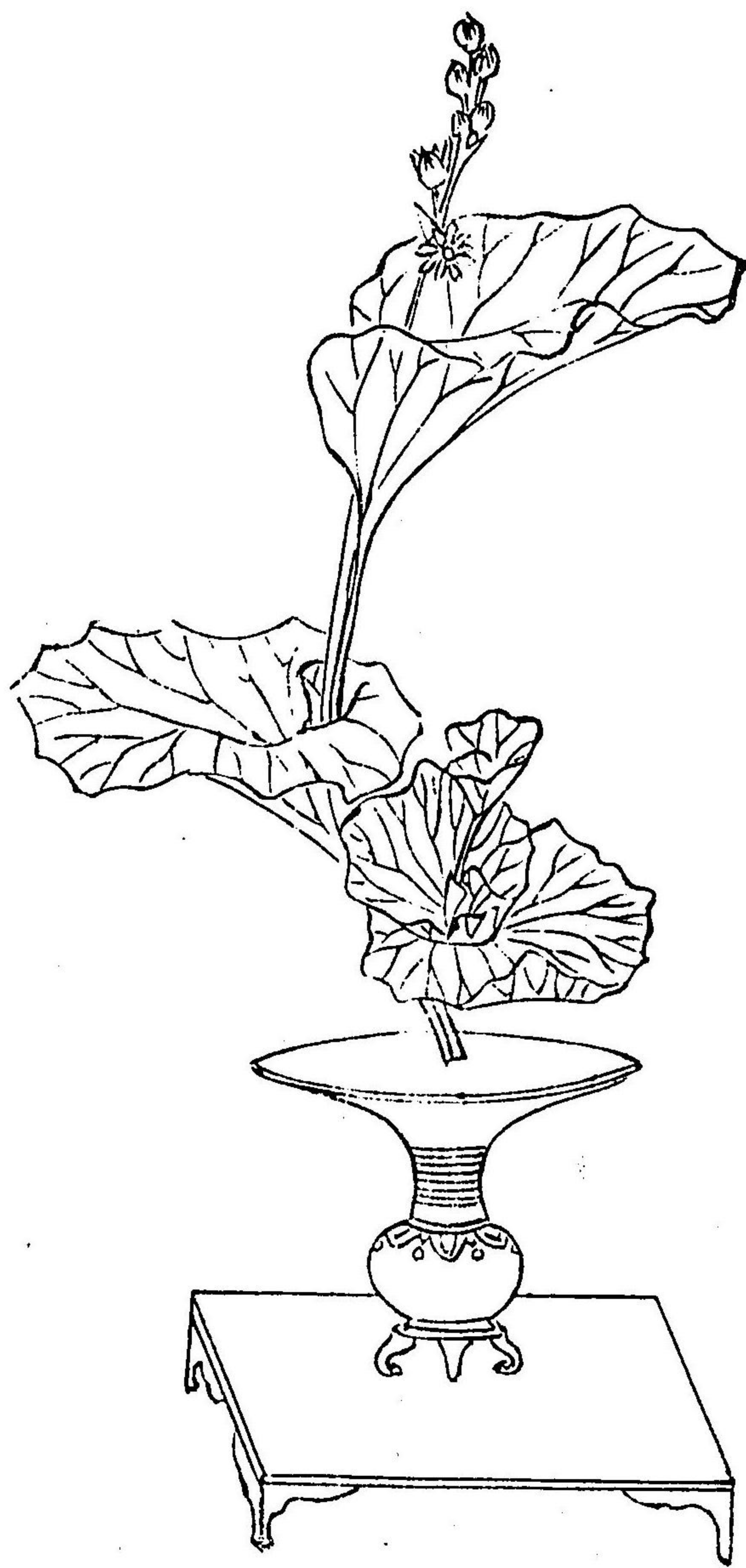




澤瀉



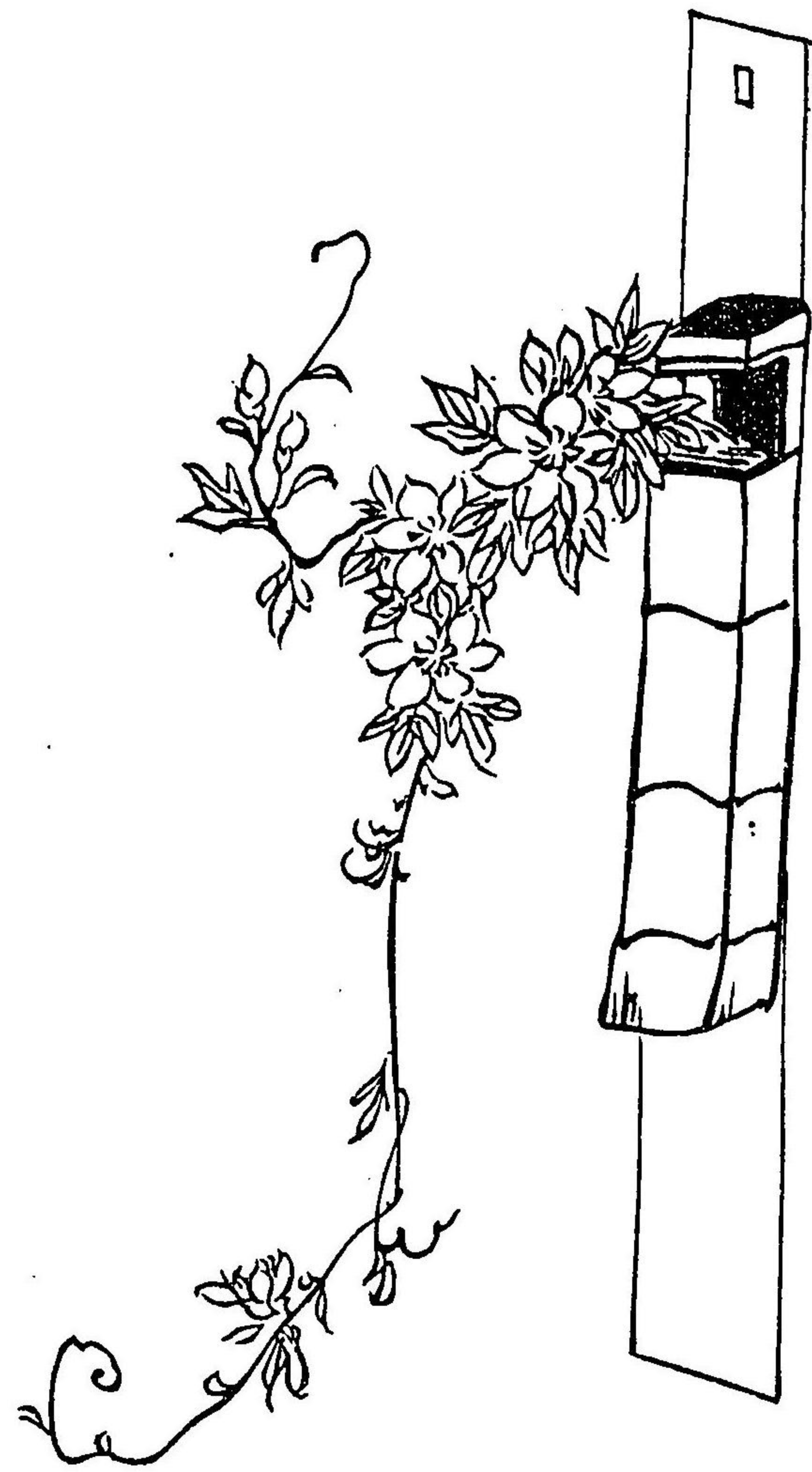
牡丹



紫
吾
五
葉
一
花
一
本

鐵線花

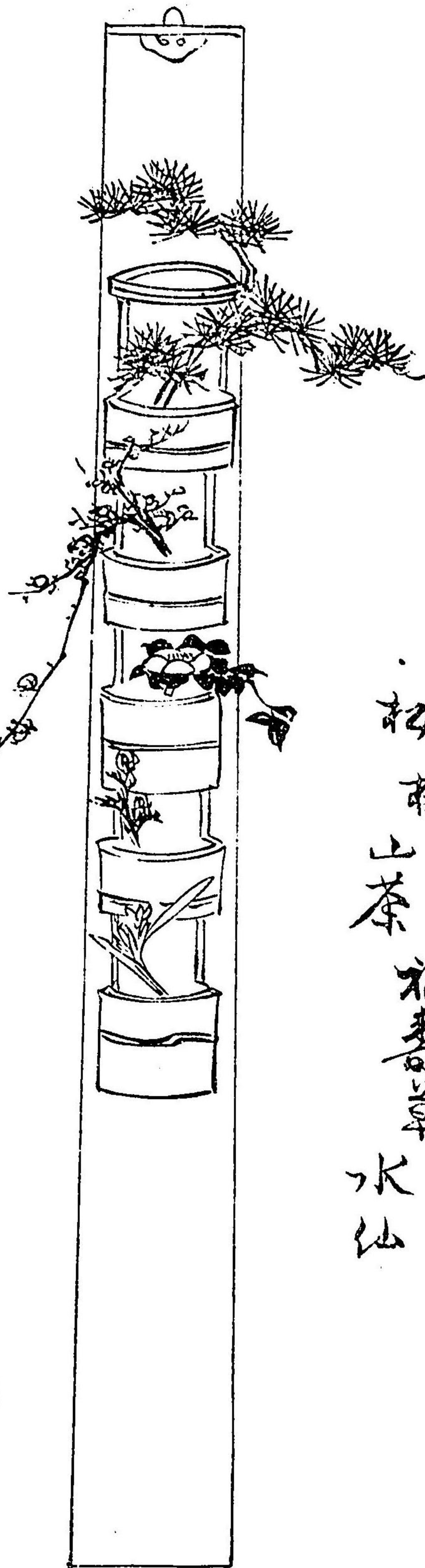
卷四方竹道安作
若郎庵所藏



花かん
九本



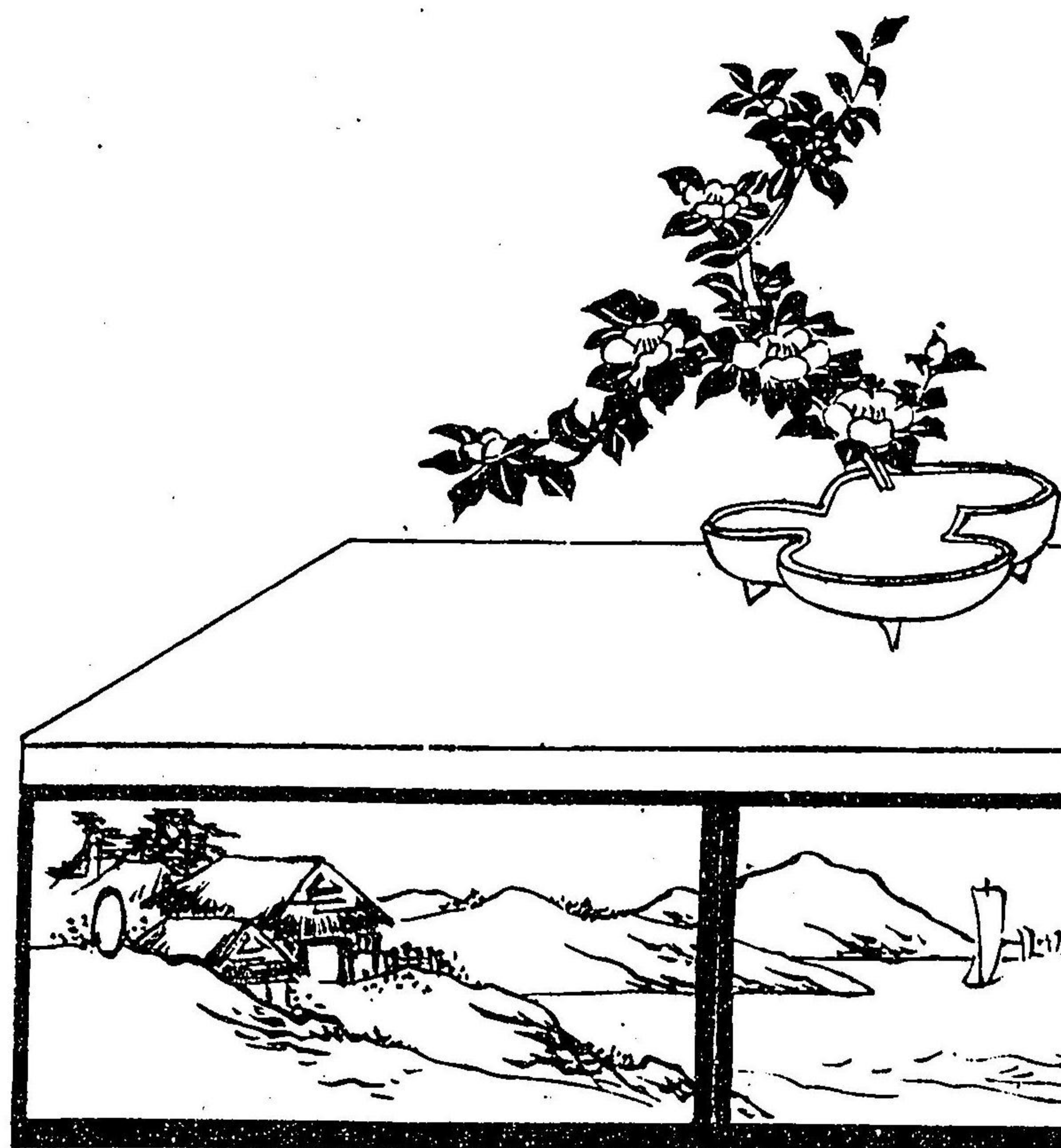
萬年青
七葉一糸



松枝
竹葉
山茶
福壽草
水仙
盆
五
後
神
國
如
こ



白菊ハクキク



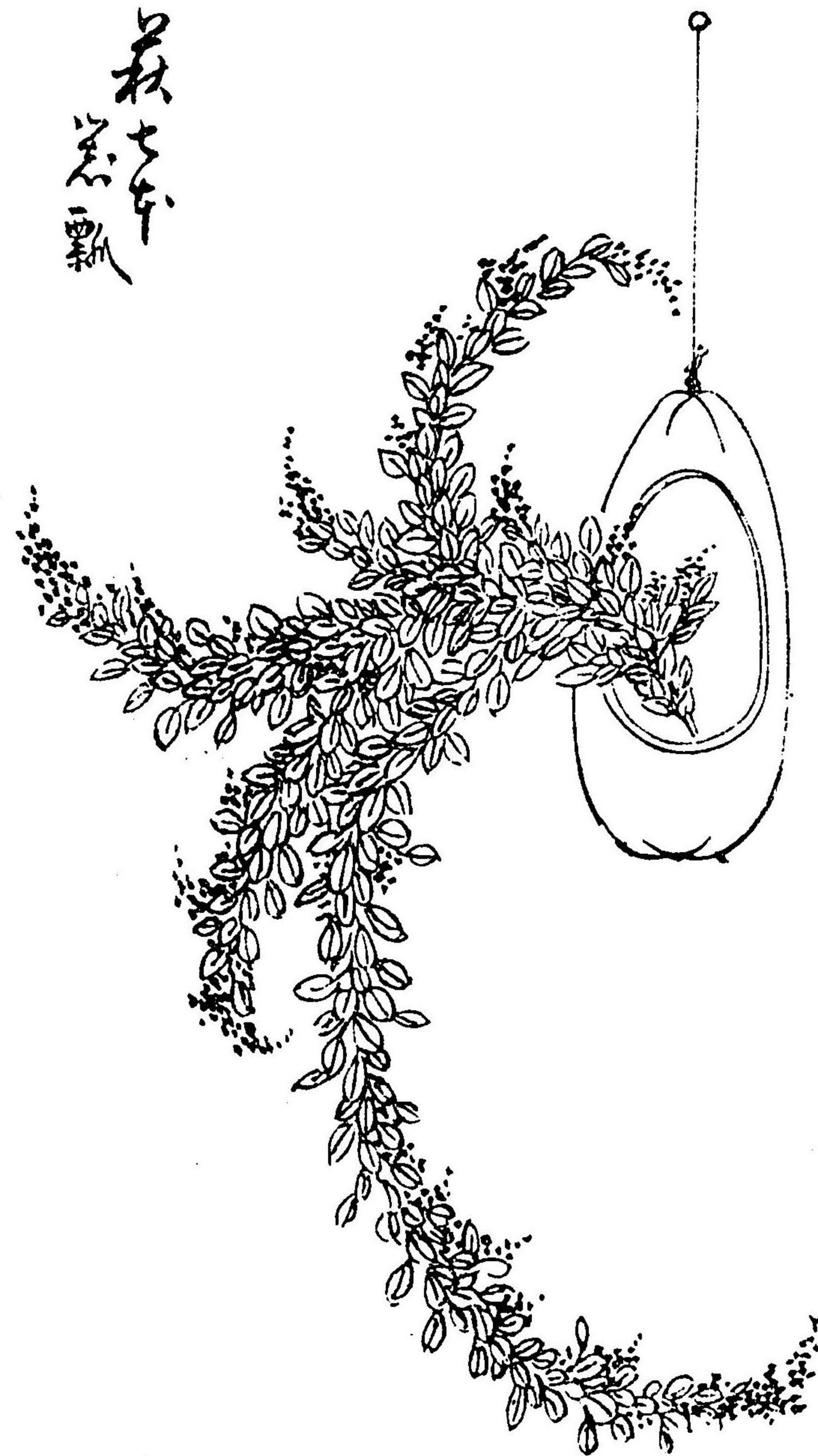
山茶サンシャ

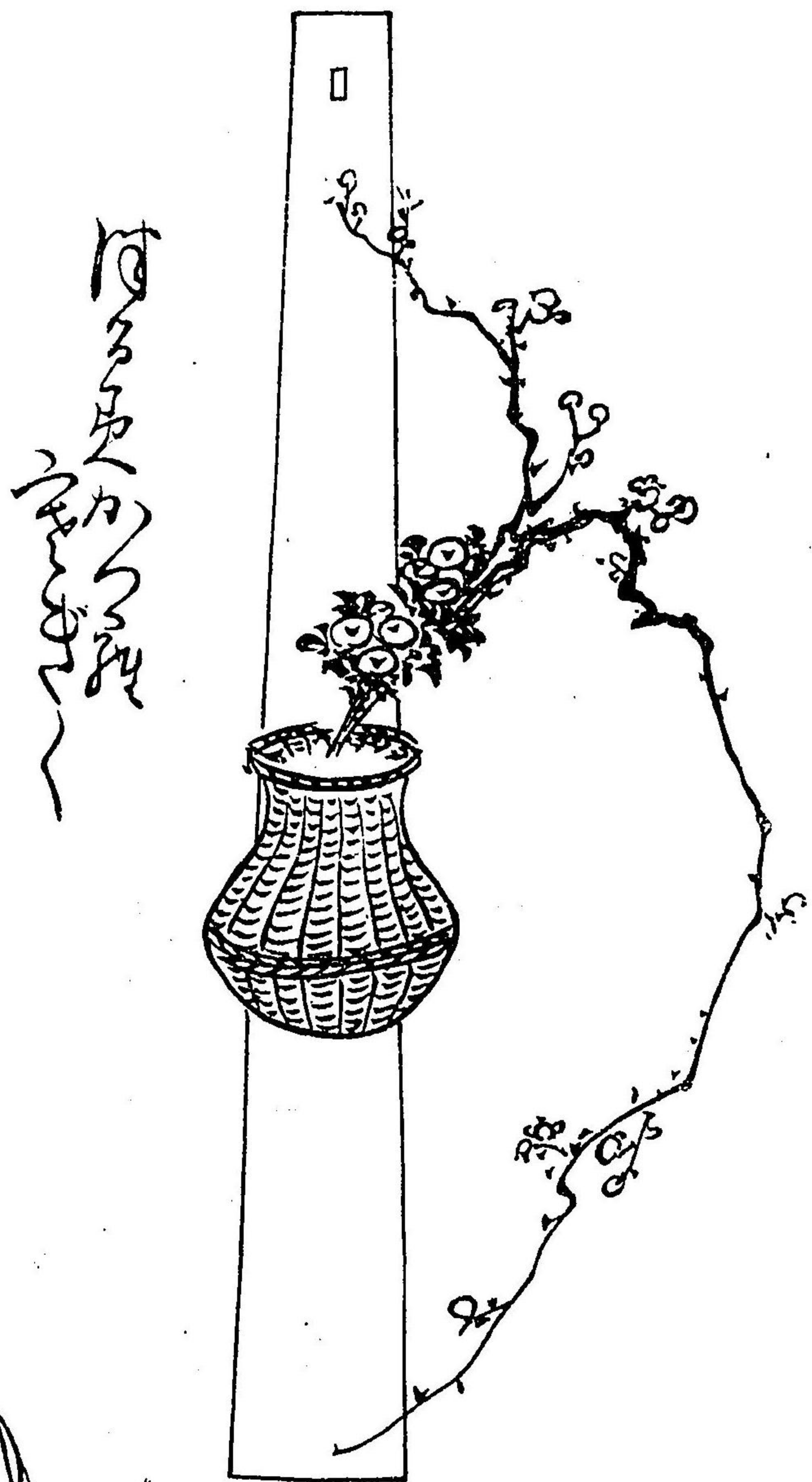


竹器再本二重

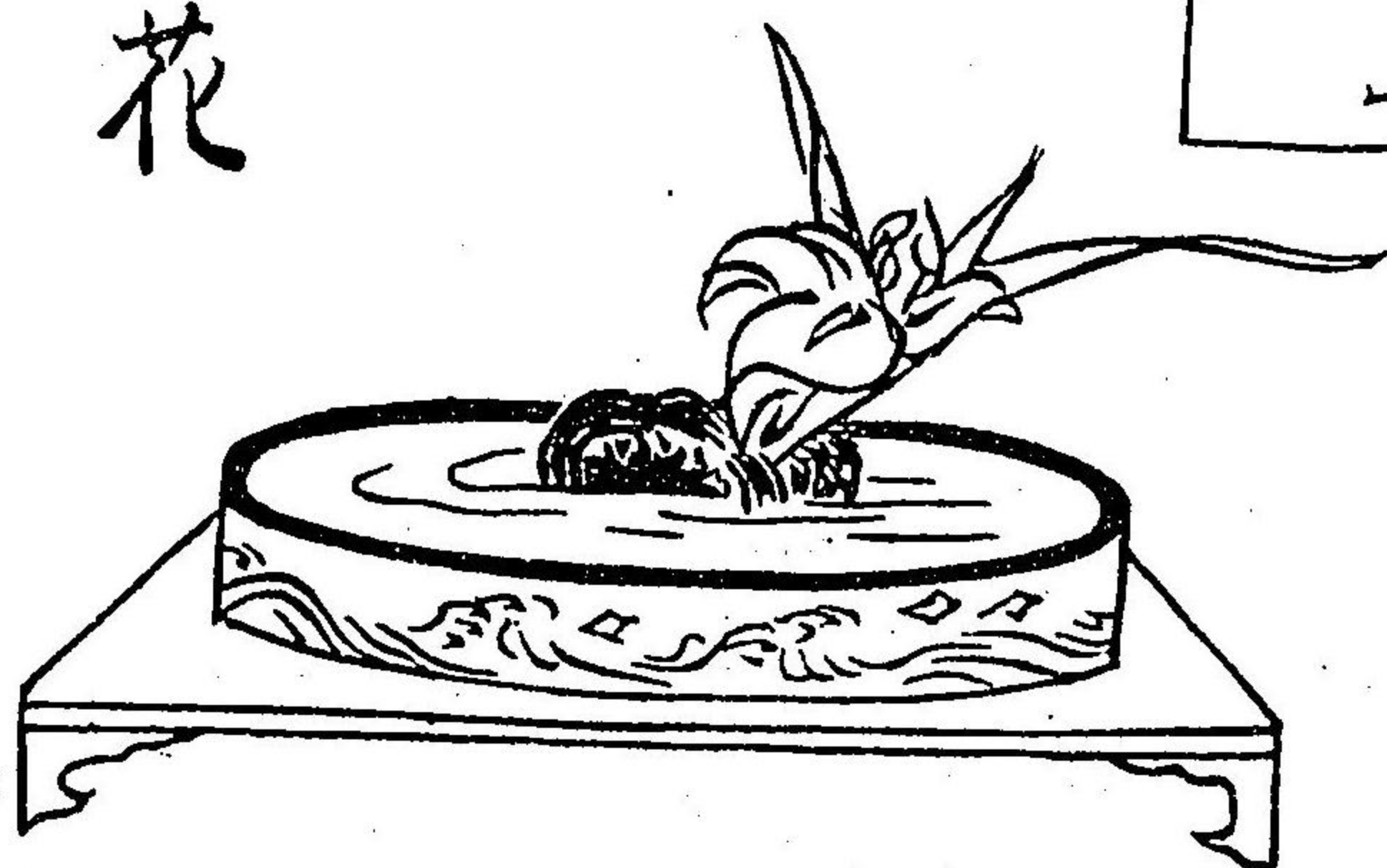
松五枝
红梅三枝

松五枝
红梅三枝





玉蘭花
七枝



燕子花
玉蘭花



玉蘭花
七枝

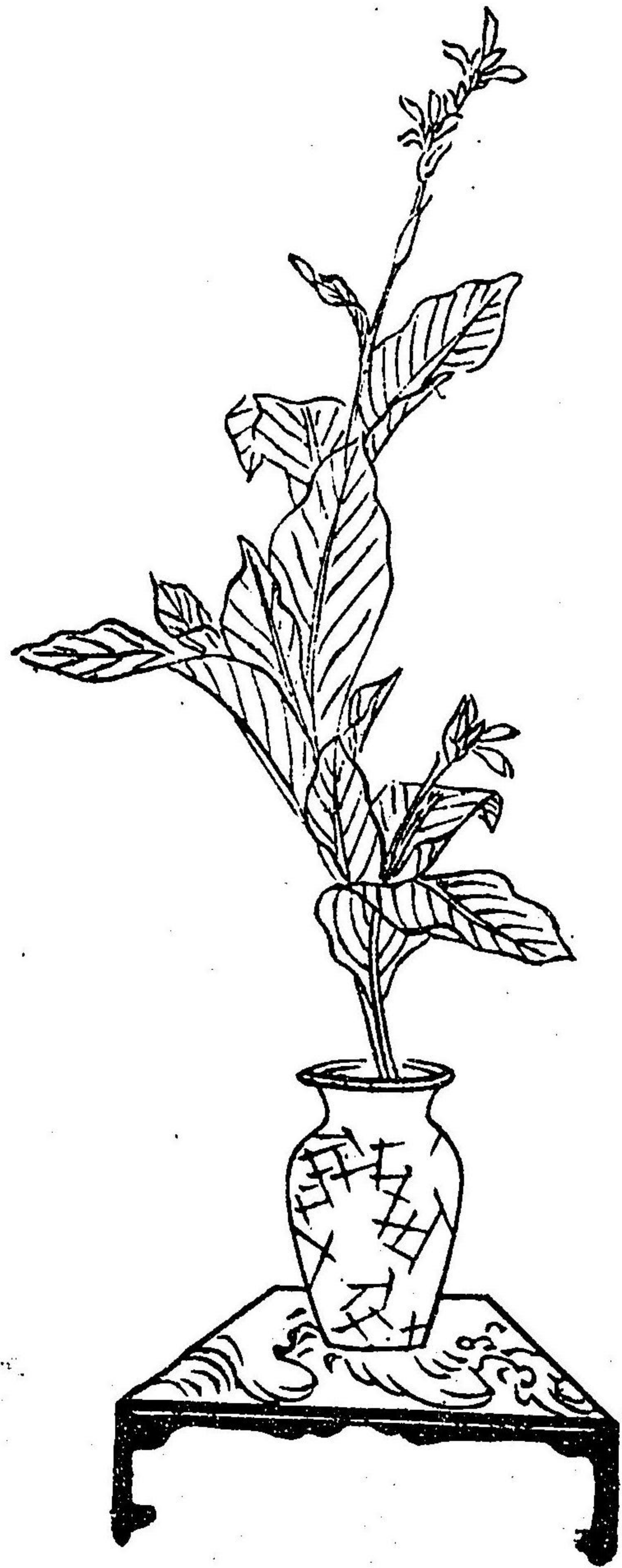


枇杷花之枝
水仙五本

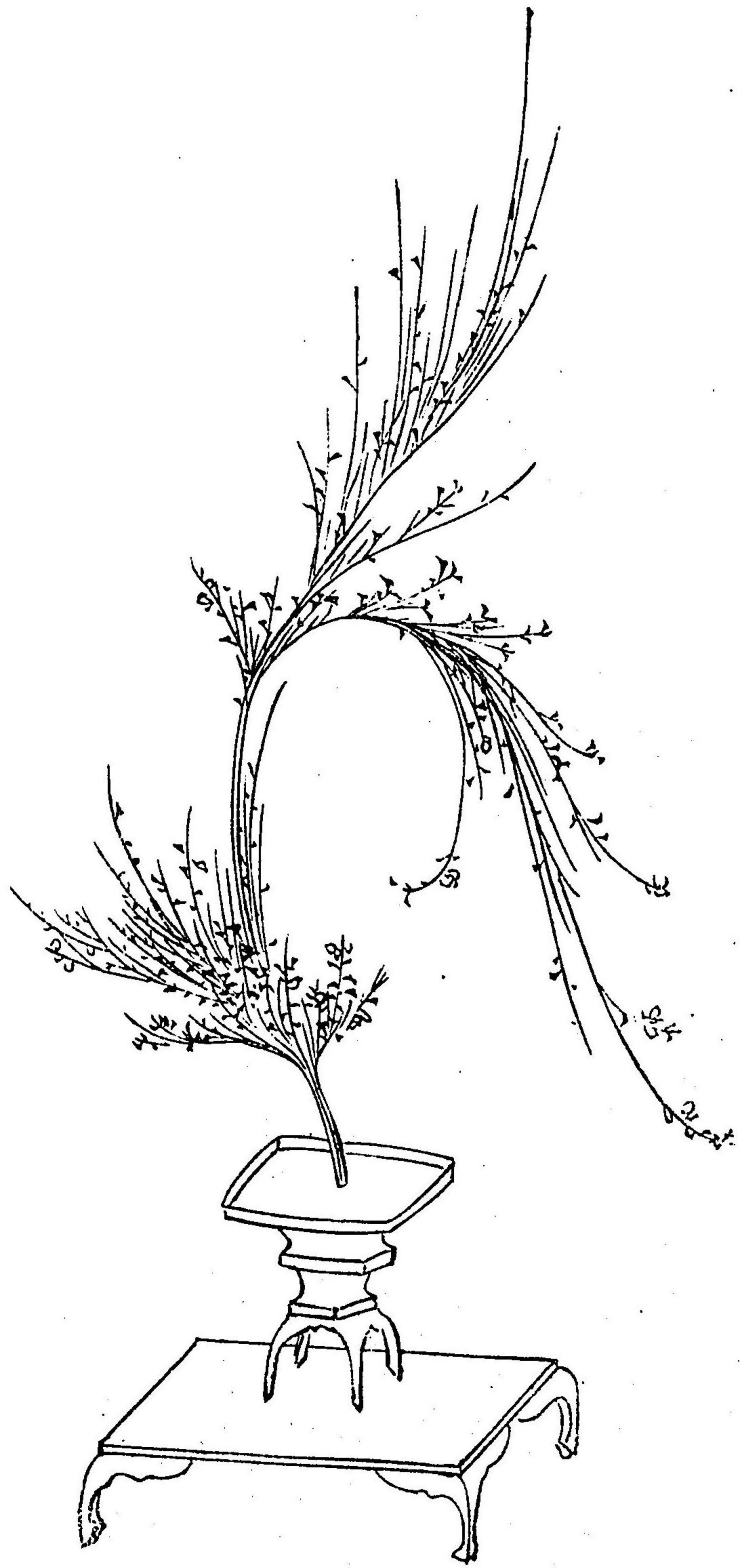


高木三寸
古木
下口
竹
竹

草之
三十一



敗
繪
花
十七

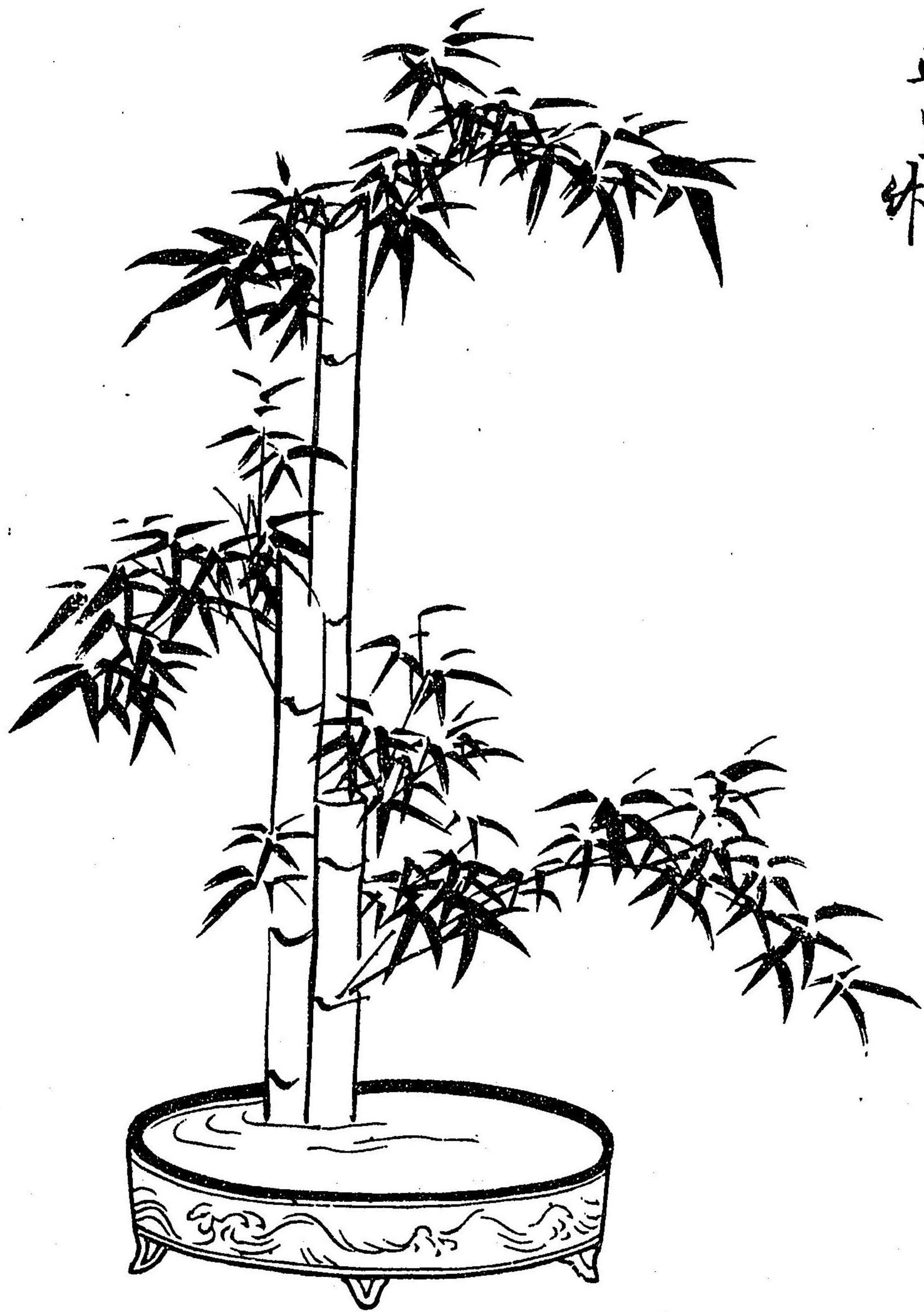


五本
五本



山茶花
七枝

孟宗
竹



四九

芍藥
三本





紫陽花 七枝



蜀山人草

墨古銅



燕手花二枝
 竹葉再束



萱草

秋の七草
 女ども萩 桔梗
 女ども萩 葛草
 瞿麥 菘菜



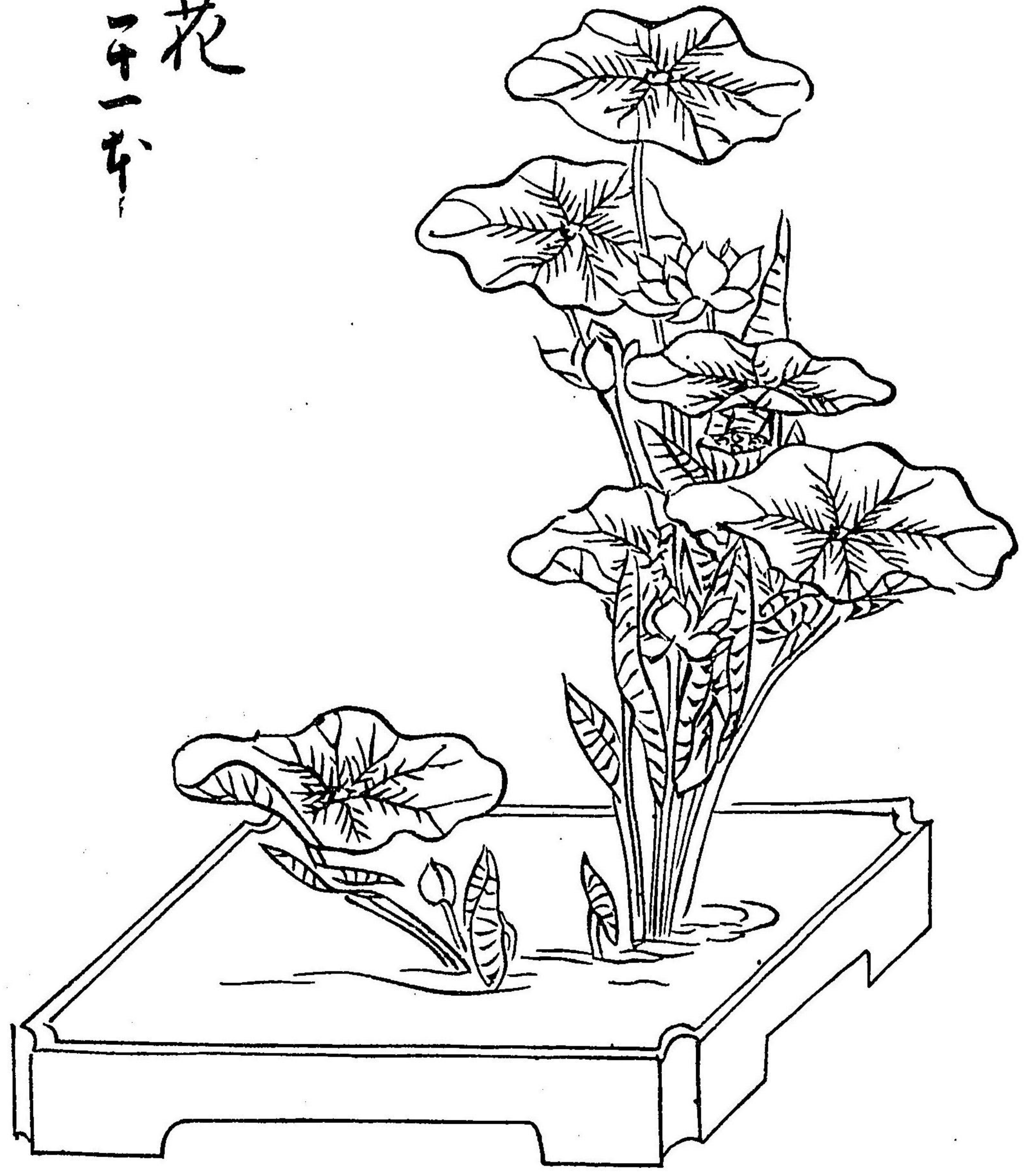
きんかぎさく
 級柿



馬月蘭 五葉二年



蓮花
二年一本





蘭
十二葉三亭
花五本
鬼筆二



鳳來紅
三本

葉心蘭五本
 之く流一才心葉
 御也



冬
 心葉
 御也



金木樨
五枝



箱根渡疏
志程



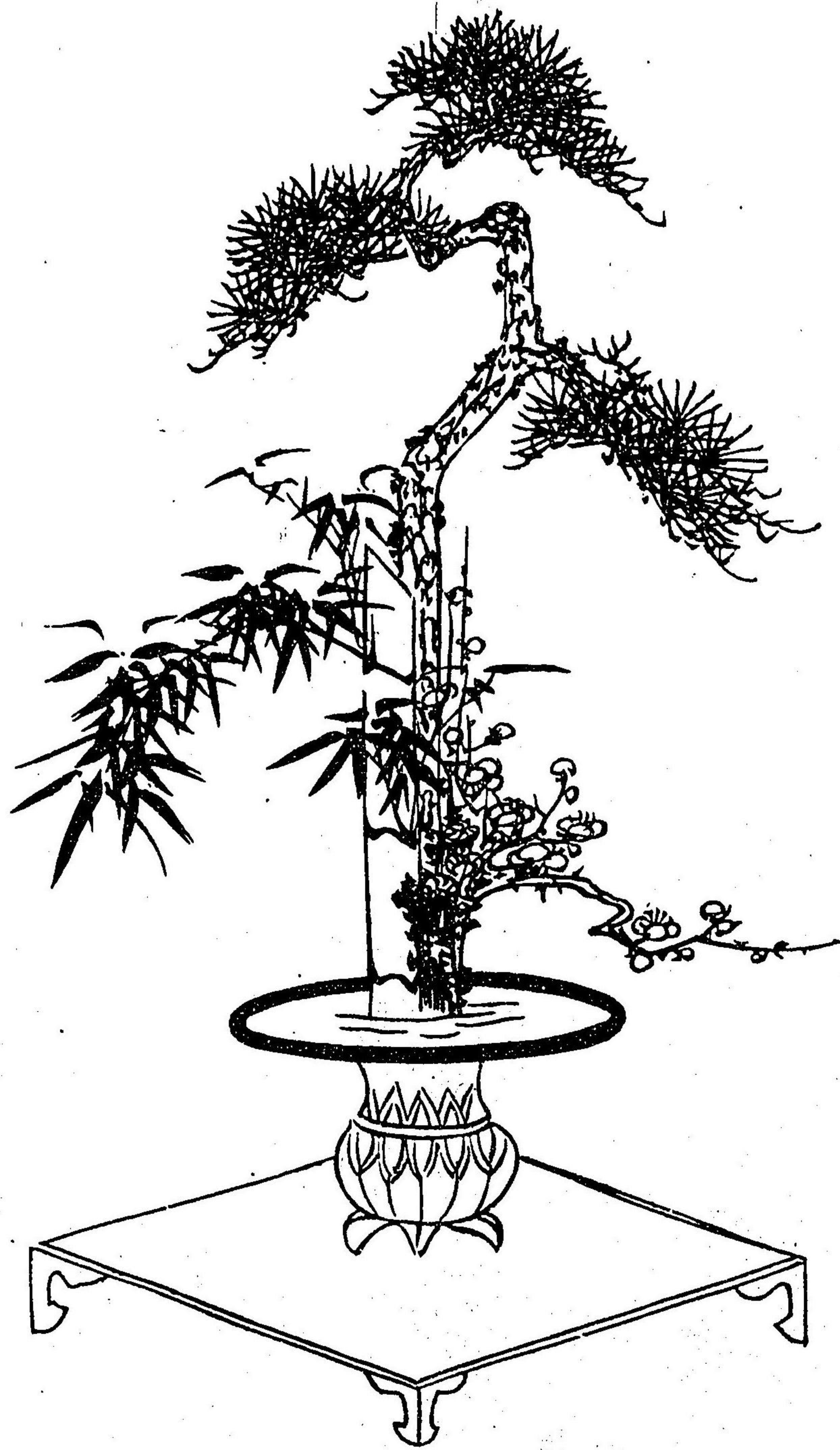


蔓藤
栴山茶



六
五
枝

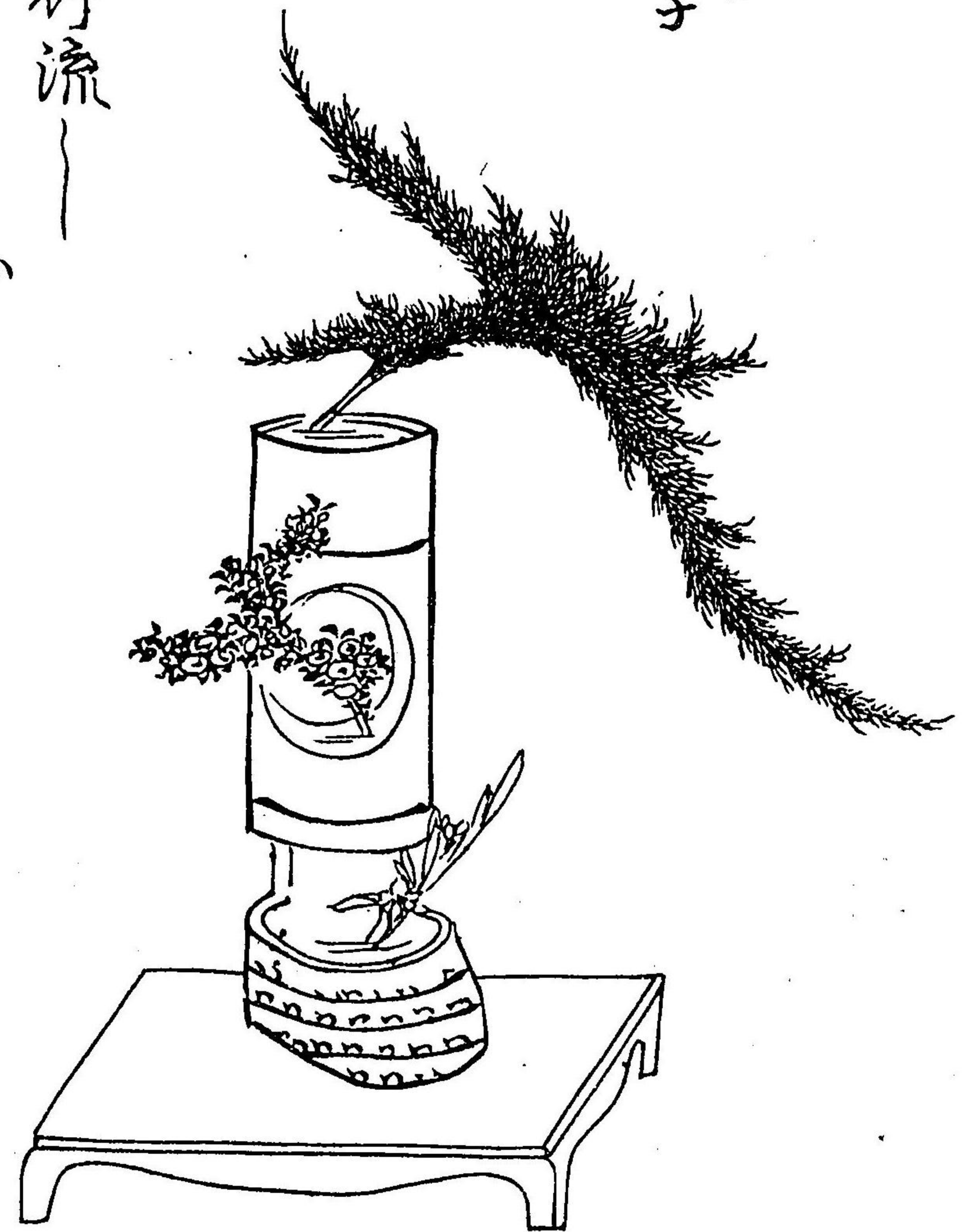
松竹梅



人の心
いひらぬ
これの心
枝を包
世の
後子

這相慘行流

まじりくも



白山茶



417

味時以田令
 如
 山
 行
 行
 行



天女花



燕子花

くまかいとう
鬼督郵之一種



挿花器具秀華編

一 生花の圖近年作れ下り出く数多ありと雖も一
 して取れ足らず其故は画工の甘んじしむく執念
 も花形も應忍く正し挿くる花の圖を守るは其
 非ず只画工の心意を任せ挿く自らも其を以て
 ぶざれは生花の意態は更なる事一 生花の天地自
 然に工み成るのその本葉は繊巧ありことし其意
 其止んや況哉挿する乃技術の餘情あり
 凡庸の人觀も遠ず其怪しき國會に著し
 希て其意を迷す者行くと云ふるは余ハ夙
 渡邊小美翁より画法を授く因て其挿たる
 生花の真態を守らる者自疑する之を

生花園舎と稱し以て梓を歌む而して此園
ハ亦石公の編史と當家の花旨とを折衷
し以て其迹微の女緼臆を會畫す見くべき
趣味せよ我れとし其纖微細密を畫す
てハ我が拙筆を以て之をそと復能り得
況んや以て縮園を如甘草一本の稟質を考
窮し可なり

一 瓶史又丹之存の花器の形又ハ六徑及徒存記に存る
の若博古園等より出る壺等易器等壺の類花の意を
以て其美者をもとめて其形を描きたる外若の形
花を盆板藤壺掬瓶馬盃ホ一瓢等の器生
具を用ゆべき意具あり凡例の物に在る也

上は用る花器と云は着に多くハ香を添へて或ハ
文を畫すも其外凡例ありもの多し然る花
器等寺の物ハ地物に給ぬ候し以て地物あるに雅
趣深きを任す今園舎に著す是の花
具も此の意に依りて必花具と定むる形備り
て地物に在る事ありとあり是花具ハ挿花の技
術上ハ感能し以て本名の意を能解し
人あるがハ出来ぬ事あり此趣ハ瓶史ハ意
厚然り下はとあり
一 銅器ハ舊高きものも有と云は又瓶史ハ意章一若具
又云めく獨以具見分の住きとて歌ぶの意ハ非ず
花も亦すはふ其大くは益ありとあり亦も亦も能揚

主人の上上名匠幅の花をまきくも恥る事な
し花の上品よく出せるものあり密蔵の
裏に舊草花物掃ある故殊よ主人むねを
一當海軍用る竹筥ハ其代方干利体意の好む多
く確も生花の技術堪能の人ありて其意
又妙所行もよきを知らず竹筥の書も傳
る其ハ先種趣深き意も傳る其書要とす
一市方の生花を秘蔵古出る者根えのやあり
ま遠せざる杖圓の如く上品ハ花名古苗の
花枝を掃草花を要あり余が門に入り一
年の秘蔵古出る西書も通さば秘蔵の
人たりとも上品にして遺すべし先上

と為ては趣のお通せざる書を知らず
本乃の生花を能解り堪能の名人あり
ハ其上の執りあり勉て技術の妙所
あり其意も秘蔵の書も通さば
文意深きを信す

花道大意

花道は草木も園の如く前ふるものより
本々順入く梢より花中より助を
一とわれぬよ為し其代なる
花を花葉の肌を掃密着せしむべし

瓶使ま白く宜花枝古瘦ま何れ然ら瘦る細き
 古木のたけすらりとなるを用むべし幹
 太く及び着枝の肥たるいや志く推
 趣を失ふものふり其伐に多く外面は
 顯しを婦ふは是は俗あらぶ木の花
 數は七五をよし其の數多く
 入る下の風を云婦ふは先の先の先の
 一の根を鞏固をし何れ出る枝は樹
 自然に生ぜ如く為す子母本
 皆同是則ち瓶瓶の性あり又約瓶或は
 瓶を失ふ賦り入る至ま皆
 此趣も駐も是以少付を受け可き

且て凡何流ももあれも瓶の花
 作製頓すべき是は挿花の肝要とす
 亦し草木も枝の根を攪め曲る時に其中
 瓶を先く多く何れ
 茲は天然の真態備はれますの瓶使ハ洗
 沐の草は不可以手觸花及指尖折剔と行す
 然れハ殆て草木の枝の中に先をハ自
 然に生ますの性質を失はば其の態を失はす
 其姿容を見ま可き是は天真爛漫の
 妙味也馬家古流の之法也草木
 根本の挿方同也其枝葉大き
 異なり亦自然の生理を矯曲め

心はぐさ——只多中——際く露に水情名
秀麗の趣をふ——必が昇方と陷るべし
凡そ生道の道に之を看る者——眼を慰
め其精神を優艶あ——むる者ふれは是
ち邪を却け正徳を脩むる聖道に恒不教
ありな花を挿む者宜く其獨を慎
むる

本國會中碧琅玕に河骨を挿たる是澤
治のしどめあり

岡澤治は蓋——天正年間豊太岡と相模國小田原
北條と對陳の後千利休居士扈從——其神聖に

在偶々伊豆國蒜山城中にまき稀ある碧琅玕
あるを聞て矢文を以て其將北條且清守氏
規に乞得て二箇の花巻を造り而して其つを
百度切とあぶる市之小忌と澤治の花弁を極
以て樹下小獻——其一を岡澤治と銘どし少菴なる
者小與ふこれ竹の衣竹筒および是澤治の嚆
矢あり因て憶ふ居士軀を兵馬倥傯戦闘
慘澹の間に置き別小胸中采日月ありて
一道の光を照らす生花の前途小照射——是り
我を——千載の下其風采を仰慕せしむ

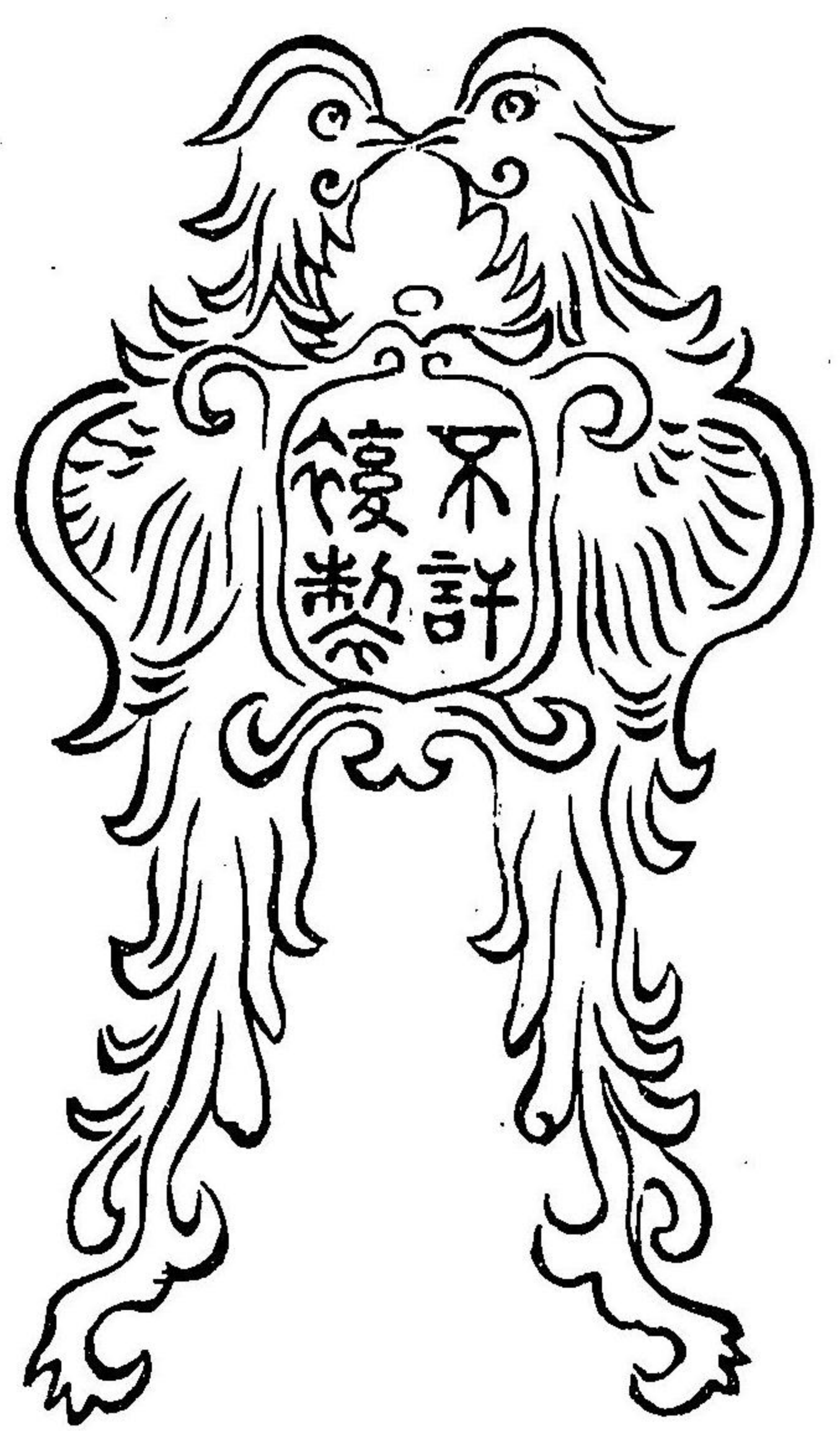
豈丈雅量の綽とく餘裕有る形に也
 後れ千家古流の支流を斟むもの須此風
 騷の玄味を咀嚼可

水耶菴

美草のあはれ



明治三十七年六月十四日彫成
 明治三十七年六月十七日發行



千家古流生花園會發行

定價金貳圓

横濱市翁町三丁目百十七番地

若耶菴芙蓉齋

著作者 伊藤一溪



横濱市吉田町二丁目廿九番地

發行者 阿部敏雄



横濱市翁町二丁目六十八番地

彫刷 鹽田米吉

兼印刷

發行所 金海堂書局



千家古流芙蓉齋伊藤一溪著

插花山野乃栞

全一册 定價 金拾貳錢
小本 郵便 金貳錢

本書は四季草木の名稱及び其の性質を明記し、凡七百種に及ぶ。聊 益を志すもの、後考を祈る。

224
141

千家古流芙蓉齋伊藤一溪著

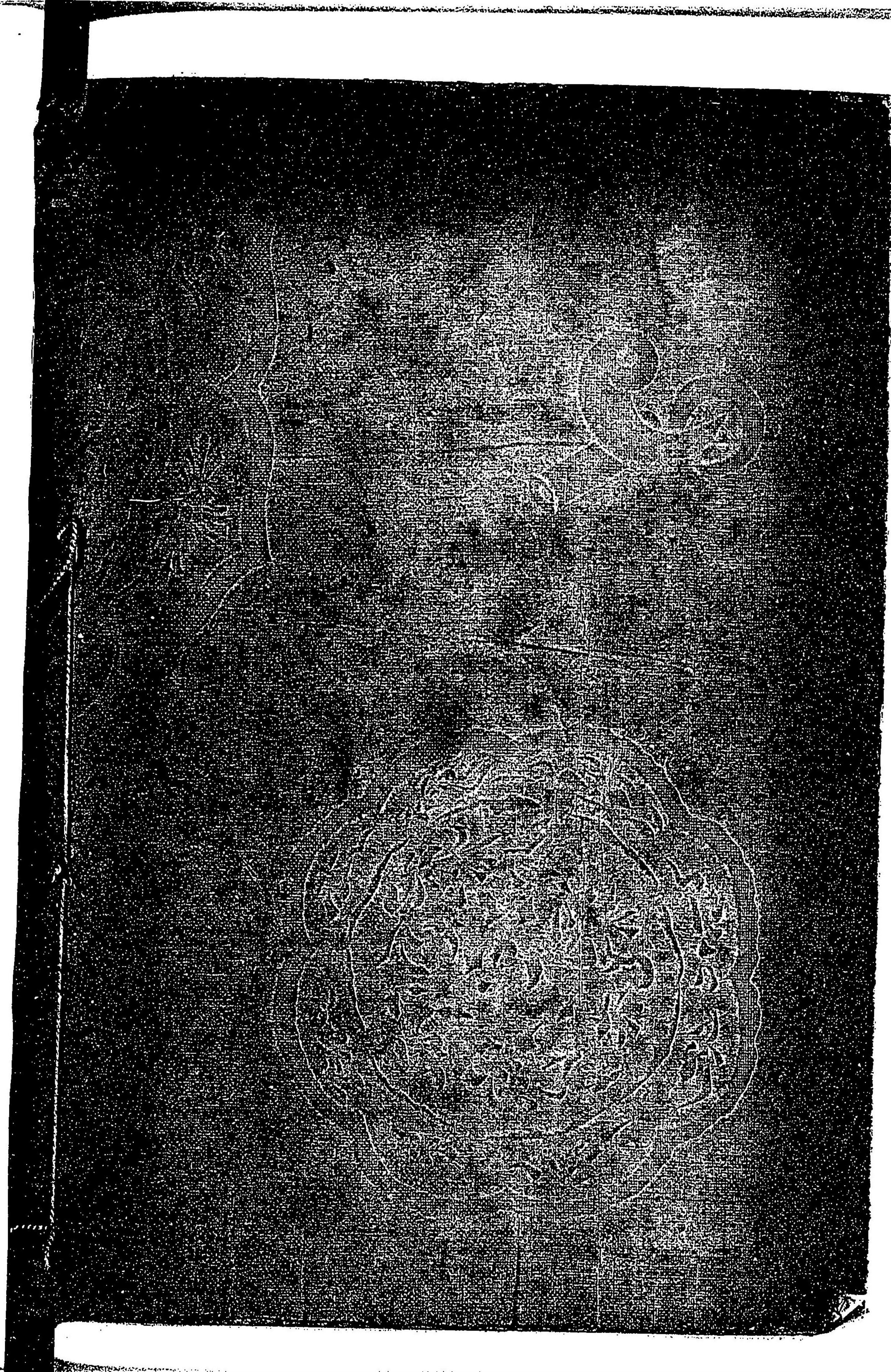
插花山野乃栞

全一冊 定價 金拾貳錢
小本 卸便 金貳錢

本書は四季草木の名稱及び其の性質を明記し、凡七百種に及ぶ。野に生ずるもの、後考す。

221

141



075994-000-0

224-141

千家古流生花図会

伊藤 一溪/著

M37

CEO-0156

